わが子のあゆみ

岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌
9
2014.9 NO.434
初秋号
第66巻2号

半世紀以上の伝統をもつ、桜尾小学校の花づくり。命のたくましさと大切さ、美しいものをつくり出す喜び、仲間と協働して作業をすることを学びます。

地域の方や施設に苗やプランタを配ることを定期的に行うなど、花を育てる活動を通して、地域の方との交流を楽しく行っています。

今年のＦＢＣで、春花壇では「東海テレビ賞」をいただきました。

夏は、毎日の水やりが欠かせません。登校後、すぐに苗の観察をします。

山県市立桜尾小学校（やまがたしりつさくらおしょうがっこう）

●【学校の教育目標】

「自ら学び　やりぬく子」

○すすんで考える子　○すすんでなかよくする子　○すすんできたえる子

がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

山県市立桜尾小学校

花の種植え

5千以上の花の種を丁寧に土に植えます。
6年生が、下級生に植え方をリードします。

フラワーショップ

地域の方々においでいただき、
花の苗をプレゼントします。

田植えの体験活動

地域の「田植え先生」から、田植えの方法を学び、体験します。

大豆パーティー

自分たちで植えた大豆を収穫し、それを
材料に地域の方から大豆の料理を学びます。

歯・口腔内の健康づくり

歯・口腔内の健康づくりを通して、
規則正しい生活習慣を身に付けます。

毎日の読書活動

朝と給食の配膳中に読書活動を行います。
語彙をひろげ、表現する力を培います。

わが子のあゆみ
2014.9 No.434 初秋号
第66巻2号

発行 ： 岐阜県PTA連合会
〒500-8824　岐阜市北八ツ寺町7　岐阜県校長会館内
編集 ： 岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
頒価 ： 200円　年間1,000円
この刊行物は一部岐阜県からの助成金を受けています。

バックナンバーのお求めは
058（262）3257
県PTA連合会事務局へ

【ぎふしりつそうでんしょうがっこう】

岐阜市立早田小学校

学校のたからもの

●住所　〒502−0841　岐阜市学園町2丁目35番地
●TEL　(058)231−1319
●FAX　(058)231−1318
●URL　http://cms.gifu-gif.ed.jp/souden-e/
●メール　gisyo35@souden-e.gifu-gif.ed.jp
●児童数　464名

◀校舎前のビオトープと芝生広場

学校の教育目標　「皆の幸せ　進んで行動」　よいことをみんなで喜び合う学校

沿革

開校：昭和三十一年四月一日
学校運営協議会発足：平成二十五年四月一日

地域の自然や風土

岐阜市の中心部に位置し、近くに長良川国際会議場、岐阜メモリアルセンターなどの文化・体育施設があり各種学校が立ち並ぶ文教地区として、教育環境に恵まれた地域です。地域の方の学校教育に対する期待と関心は高く、自治会をはじめとする各種団体やPTAの活動はたいへん盛んで、地域社会の中で子どもたちは育っています。

コミュニティ・スクールとして二年目を迎え、地域の諸団体・保護者との協育を推進し、学校の教育目標「皆の幸せ　進んで行動」の具現に向け、次の三点を重点的な実践課題として教育活動を推進しています。

（一）学力向上
（二）いじめ0
（三）体力向上

とくに、人権教育・道徳教育の充実に力を入れ、全職員が「自分を大切にするとともに他の人のよさを認めること」を心がけています。全校で「よいことをみんなで喜び合うこと」をめざし、学校と家庭や地域と連携を深め、広げられるように、教育の情報化（通信やホームページを利用した啓発活動）を大切にしています。

学校のたからもの❶ 学校教育に生きる地域力

校舎南にあるビオトープの活用や、校庭の芝生の維持・管理、地域清掃では地域の方々にお世話になっています。また、早田太鼓のご指導や読み聞かせサポーター等、多くの方にご尽力いただいています。

①校庭の芝生化

平成二十六年度、芝生広場・遊具広場などの約四千㎡を芝生化しました。六月七日のティフトン芝の苗植えには、三五〇名以上の地域や保護者の参加があり、子どもたちと一緒に二万千株の苗を植えました。PTAや地域との協働作業は、地域をあげての子育てという点でも大きな成果がありました。

夏休みには、避難所体験と合わせて、芝生広場で親子宿泊体験も行いました。

早田川清掃（5年生）では▶力を合わせて川を守ります!

▼早田太鼓コーナー（ふれあいデー）でたたき方を教えてもらいました!

校庭の芝生化(全校)　地域の方と共に一生懸命に芝生の苗を植えました!

▲遊具広場で安全に遊べるようになります!

▲PTAの方がたくさん手伝ってくださいました!

▲裸足になって芝生広場で遊べる日が楽しみです!

校歌

早田小学校校歌

作詞　校歌制定委嘱委員会
作曲　安井万治

一、明るい空だ　広い空
長良川原に　花そだて
心ゆたかに　手をつなぎ
はげまし合って　やりぬこう
仲よし仲間だ　早田っ子

二、かがやく空だ　青い空
金華の山と　背くらべ
力いっぱい　胸はって
明るく強く　たくましく
伸びゆく仲間だ　早田っ子

▲スライド笛づくりコーナーで音が出て楽しかったです!

②ビオトープでの体験活動

ビオトープは、平成十二年度に「早田に蛍を」という願いで作られました。残念ながら蛍はいなくなりましたが、ビオトープは子どもたちが遊んだり自然観察をしたりする憩いの場となっています。PTA活動として昨年今年と親子で清掃をしたり、ファミリーパーク近くの川遊びをした後少し魚をもらってきてビオトープに放流したりと、楽しく活動しています。

▲子どもたちの憩いの場ビオトープ

③「早田ふれあいデー」で、地域・家庭と連携

十月に、地域や保護者の方と一緒に「早田ふれあいデー」を行います。この日は、地域やPTAの方を講師として「こま回し」や「スライド笛」など二十三のコーナーで子どもたちがふれあいを大切にして活動します。体育館に全校児童、地域やPTAの方が一堂に集う感謝の会は、温かい雰囲気に包まれます。

こま回しコーナーでこまを▶回せるようになりました!

ふれあいデーの活動(全校)で地域の方とふれあいを深めます!

祖父母との同居家庭が少なくなる中「早田ふれあいデー」で、三世代の交流ができる機会を学校と地域・家庭で工夫し、毎年改善を図っていることは意味があり、本当によいことだと思います。
（学校運営協議会会長　吉田　徹様）

▲ふれあいデーの感謝の会には、たくさんの方が参加してくださいました!

学校のたからもの❷ 学校教育に生きる家庭の教育力

①『食』でつなぐ家族の絆　家庭教育学級（在宅取り組み型）

「夏休み！家族に感謝しよう大作戦」では、夏休み中に「できることからやってみよう」を合言葉に、家庭に応じて食にかかわるお手伝いをしました。

また、「秋！家族に感謝しよう大作戦」では、「早田ふれあいデー」に合わせ、家庭の実情に応じてできる弁当づくりに参加しました。

本年度からPTA要覧に掲載した「家庭学習の手引き」の活用も始まっており、自分に合った家庭学習にチャレンジしています。

家族に感謝しよう大作戦の掲示
PTA役員の方による製作です。

【おおがきしりつあおはかしょうがっこう】

大垣市立青墓小学校

学校のたからもの

●住所　〒503−2221　大垣市青墓町1丁目787
●TEL　(0584)91−0064
●FAX　(0584)91−0063
●メール　aohaka@ogaki-city.ed.jp

●児童数　441人(H26.7.1現在)

学校の教育目標　**「ふるさとを愛し、心も体もたくましい子」**

学校の教育目標

学校の教育目標は、「ふるさとを愛し、心も体もたくましい子」です。学校、家庭、地域が協力し、子どもたちがふるさとに触れ、ふるさとを実感し、ふるさとを大切にしようとする「ふるさと教育」を行っています。

また、全校でよさ見付けを行い、「美しい心」として学校便りや全校放送などで紹介しています。美しい心を通して、自分のよさを自覚し、自分に自信をもち、様々なことに挑戦する勇気と、困難を乗り越えていく逞しさを育てています。

沿革・地域の自然や風土

明治六年に青野村に青野学校が設立されてから、本年度で創立百四十一周年になります。校区は、大垣市の北西部に位置し、古くからの村落と昭和三十年以降に形成された住宅団地から成り立っています。校名「青墓」は、「あおはか」と読みますが、校歌では「おおはか」です。それは、校区に東海地区最大級の前方後円墳の昼飯大塚古墳をはじめ、大小百八十基以上の古墳があることから、大きいお墓＝大墓とか、王様のお墓＝王墓、多くのお墓＝多墓が語源です。

中山道が校区を東西に横断する古来からの交通の要所であり、美濃国分寺跡があり、伝説・民話も豊富に伝えられている「史跡の里」であります。

学校のたからもの 1 地域探検

学年ごとに校区の史跡の探検をします。

・一年生・二年生
「地蔵公園、野外活動センター」
・三年生
「照手姫の水汲み井戸、御鍬神社、矢奴神社、美濃国分寺跡」
・四年生
「美濃国分寺跡、魚の養殖場、白玉椿跡」
・五年生
「円興寺、元円興寺跡、源朝長公の墓」
・六年生
「昼飯大塚古墳、粉糠山古墳、長塚古墳、教覚寺、大垣市歴史民俗資料館」

それぞれの場所で、地域の方から説明していただいています。

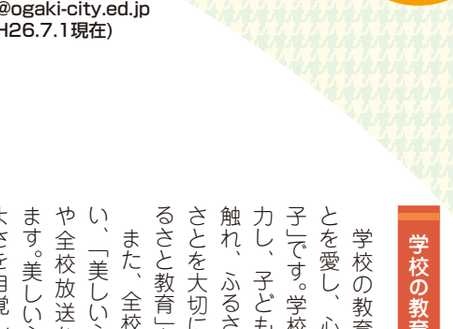
学校のたからもの 2 青小まつり

一・二年生は木の実や落ち葉などの自然物で作ったもので幼保園の子を招待して楽しく遊びます。三年生は、郷土の歴史をまとめた「ふる里青墓」の民話・伝説の中から、地域の民話を紙芝居やペープサートにして紹介します。四年生以上は劇で「白玉姫物語」、五年生は「照手の汲み井戸」、六年生は「朝長と青墓の夜」を演じます。毎年、工夫した劇に仕上げています。

学校のたからもの 3 三川小学校との交流

源朝長公を仲立ちに静岡県袋井市立三川小学校と交流をして今年で二十一年目になります。

青墓には朝長公の身体が、三川には朝長公の首が葬られています。春には青墓から三川へ、秋にはその反対に来てもらって、それぞれのお墓にお参りをしています。また、地域の自然や文化の紹介をしています。



▲昼飯大塚古墳と6年生

▼白玉姫物語を演じる4年生

◀朝長公のお墓とボランティア

校歌

青墓小学校校歌

作詞　平光善久
作曲　小木曽薫

一、伊吹の山の　霧晴れて
輝く空に果てしなき
希望のつばさ　はばたけば
風に光に力満ち
栄光の峰　ここにかおり
輝く　青墓小学校

二、りりしく清き　眉あげて
けやきのこずえ仰ぎみる
郷土の歴史内に秘め
日々に新たに命みち
伝統の旗高くかざし
輝く　青墓小学校

三、沸き立つ心　雲のごと
伸びゆく我らすこやかに
理想の道を踏みゆけば
水に緑に光みち
創造の意気常にもやし
輝く　青墓小学校

▲優勝杯と最優秀校盾

▲源朝長公墓所前で三川小と交流

学校のたからもの 4 俳句作り

一年生から俳句作りに取り組んでいます。十七文字のリズムや表現を楽しみながら、月に一句作っています。「大垣」全国俳句大会主催、芭蕉蛤塚忌全国俳句大会では最優秀校となりました。昨年度は、東京都荒川区主催奥の細道子ども俳句相撲大会で全国優勝しました。

▼昼飯大塚古墳の模型を作る

▲昼飯大塚古墳で葺石体験をする6年生

学校のたからもの 5 葺石・古墳・勾玉作り

六年生は、昼飯大塚古墳で葺石を葺く体験をしています。また、勾玉を作って装飾品の理解を深めたり、昼飯大塚古墳の六百分の一の模型を作って、古墳の特徴を詳しく理解したりするようにしています。五年生は埴輪を作って、校庭の青小古墳に毎年奉納しています。

▲作った埴輪を奉納する5年生

学校のたからもの 6 美しい心

「美しい心」とは、福祉委員会が『美しい心をいつまでも忘れずに』と願って考えた言葉で、『美しい言葉遣い、思いやりの心、協力する態度』等です。「美しい心」の子を全校放送で紹介したり、「思いやりの葉」によいこと見付けを書いたりしています。

▲「美しい心」を全校放送する福祉委員会

学校のたからもの 7 けやきっ子活動

全校児童を十五班に分割して異学年で遊んでいます。各班の六年生がリーダーとなって、低学年の子も楽しく活動でき、みんなが仲良くなるように、いろいろ工夫しています。

異年齢集団遊び▶「けやきっ子活動」

【みのかもしりついぶかしょうがっこう】

美濃加茂市立伊深小学校

学校のたからもの

●住所　〒505−0008 美濃加茂市伊深町888−2
●TEL　(0574)29−1396
●FAX　(0574)29−1596
●URL　http://ibukasyo.com
●メール　ibuka-sch@edu.forest.minokamo.gifu.jp

●児童数　58名

学校の教育目標　『明るく笑顔あふれる伊深っ子 ～学び合う　思いやる　やりぬく～』

学校の沿革・地域の自然・風土

伊深町は美濃加茂市の北部に位置し、西を流れる大洞川、南を流れる川浦川流域に約二百七十haの田畑が開け、山に囲まれ、水と緑に恵まれた所です。川浦川には国の天然記念物である「ネコギギ」が棲んでいます。

また、妙心寺派の禅道場として有名な正眼寺（しょうげんじ）があります。その旧跡に、寛文九年（一六六九年）、正眼寺が建立されています。関山慧玄は、今日でも「エゲン坊」「エゲンさん」の名で地域に親しまれています。伊深小学校は、明治六年、この正眼寺境内の見桃庵を仮校舎として「秀文義校」の名で開校しました。

伊深小学校の校歌には、このことが歌われています。

学校の教育目標と合言葉

学校の教育目標『明るく笑顔あふれる伊深っ子　～学び合う　思いやる　やりぬく～』を具現すべく、全校五十八名の児童とその保護者、教職員が一丸となって取り組んでいます。また、地域に根ざした学校として、地域と密接に結びついた教育活動を展開しています。

教育方針は『自他の思いを大切にし、達成感を喜び合える学校』、重点は、『だれもが楽しく「わかった」「できた」を実感できる授業』を目指した『教育のユニバーサルデザイン化の推進』です。

伊深小学校の合言葉は、『あなたが大切！だれもが主役』です。学校生活の中で大半を占める授業で、一人一人が「わかった！」「できた！」「学校が楽しい。」と実感し、自己肯定感を高められるよう、『教育のユニバーサルデザイン化』に全校挙げて取り組んでいます。少人数ならではの個に応じた支援・だれもが分かりやすく、落ち着いて学習に取り組むことができる教室環境の整備、指導法の工夫、授業改善に努めています。

学校のたからもの❶ 明るく笑顔あふれるあいさつ

「おはようございます。」校庭にこだまする明るいあいさつで、毎日の学校生活がスタートします。児童会運営委員会が中心となり、「みんなで、楽しく」を合言葉に、あいさつ運動を展開しています。

まず、二十四年度児童会あいさつキャラクター『あいさつうさぎ』が誕生しました。手作りTシャツを着て活動する児童会役員の姿を見た子どもたちは、「私たちもTシャツを着てあいさつ運動がしたい。」と訴えました。あいさつ運動に生懸命取り組む子どもたちの姿をみて、PTAで全校児童分Tシャツを作っていただきました。二十五年度、「おはようございぎ」「あいさつはりねずみ」二匹のおともだちキャラクターが誕生しました。児童会では、もっとあいさつを広げようと、あいさつ運動に賛同してくださる方々に協力をお願いしました。

夢が叶い、プロのデザイナーと一緒に三つのキャラクターを配置したTシャツを製作しました。このTシャツを着用し、あいさつ運動をもっともっと広げようと児童会・PTA・地域が手を取り合って活動しています。名前を呼んで、相手の目を見て笑顔であいさつする姿が、本物になってきました。「あいさつのまち伊深」をキャッチフレーズに、今年は「安全あいさつうさぎ看板」を児童が制作し、地域に設置しました。

学校のたからもの❷ なかよし活動 ～あたたかい言葉かけ～

全校児童五十八人は、みんな仲よく活動しています。毎日の掃除もその一つ。「机をうつて。」「はい。」高学年のリーダーを中心に、めあてをもち、協力し合って、すみずみまで集中して取り組む「もくもく掃除」は、伊深小学校の伝統です。

春の校外学習・業間のなかよし遊びでは、誰もが笑顔になれるよう、「仲間を思いやり、励まし合うあたたかい言葉かけ」を大切にしています。

また、アプローチカリキュラムとして、あいさつ運動、遊び、給食参観、図書館利用など、おとなりのほくぶ保育園の年長児との交流を続けています。

学校のたからもの❸ 音読・朗読・読書大好き

毎週木曜日の朝活動は、「音読タイム」。どの教室からも、リズムに乗って楽しく音読する声が聞こえてきます。年に二回、全校児童の前で、音読発表をします。他学年の音読の工夫をみつけたり、詩の楽しさを一緒に味わったりします。今年度は、さらに表現力に磨きをかけようと、低学年・高学年別に朗読劇に挑戦しています。毎月一回元劇団員のいのこ福代さんを講師に迎え、「聞き手に思いを伝える」を目標に、総合的な学習の時間・国語の時間に取り組んでいます。十月十八日、日頃お世話になっている方々をお迎えし、感謝の気持ちを伝える「子ども祭り」で発表します。

また、毎週金曜日は、全校読書・読み聞かせの日です。

「今日は、どんなお話かな。」伊深朗読サークル（含PTA）の方々の読み聞かせをとても楽しみにしています。昨年度全校児童で合計二万冊を読破しました。今年は、長いお話等じっくり読むことや家族読書にも挑戦します。木曜日は、ダブルブックデーで本を二冊借りることができます。金曜日の朝は、登校すると、用意しておいた図書館の本を自分の席で読みます。この日は、校内を回るあいさつ運動は、お休みです。

図書館だけでなく、県図書館からお借りした本コーナー、教師が選んだ学級文庫等読みたくなる環境を整備しています。

学校のたからもの❹ 人とのつながり

あいさつ運動、読み聞かせのほかにも、伊深っ子たちは、多くの方々にお世話になっています。

まず、登下校を見守ってくだされる「地域学校安全サポートチーム」の方々です。通学路の安全を見守ってくださることはもちろん、交通安全教室、夏休みのパトロール等もPTAに協力して助けてくださいます。

次に、「伊深っ子クラブ」です。三年生以下の児童の放課後の居場所づくりにと、学校協力者会議で地域のいろいろな特技をお持ちの方を紹介していただき、毎月第二水曜日の六時間目に活動しています。「紙飛行機」「お手玉遊び」「伊深の自然」「竹とんぼ」「ダンス」「おやつづくり」「カルタ遊び」等の講座を行っています。

また、生活科、総合的な時間の学習には、学外講師として、地域講師を招いて伊深のじまんや自然について教えていただいたり、もち米作り・しいたけ栽培などの体験活動をさせていただいたりしています。体験活動は、「伊深まちづくり協議会」の学校田支援グループ・あじさい会や里山活動グループなど大勢の方々にお世話になっています。

さらに、美濃加茂ライオンズクラブ、いろいろな企業（地域の異業種交流会）の方々をお迎えし、高学年の児童が、いろいろな職業についてお話を聞いたり、自分たちのあいさつ運動の取組について提案し、ご意見を伺う会も行ったりしています。秋には、作曲家宮川彬良氏と作詞家の市原惠美氏に委嘱したあいさつをテーマとした合唱曲も完成することになっています。

この他にも、いろいろなお立場の方々に、学校を支えていただいています。ここには、紙面の都合上詳しくご紹介できなかった宝物が数多くあります。是非、本校ホームページをのぞいてみてください。

明るく笑顔あふれる子どもたちと温かく見守ってくださる地域の方の姿をご覧いただけると思います。

▲地域に安全あいさつうさぎの看板を設置

▲全員集合伊深っ子

あいさつうさぎ看板▶

校歌

伊深小学校校歌

編　校歌選定委員会
作曲・補作　鷲見臣一郎

一、めぐらす山　みどりの風
流れる水　せせらぎの唄
その中に建つ　わが学舎
自然の恵　ゆたかに享けて
明るく伸びゆく　伊深小学校

二、明治六年（むとせ）　見桃庵
無相大師　ゆかりの地
ここに生まれた（こころ）　わが学舎
秀文義校の　精神うけ継ぎ
いや栄えゆく　伊深小学校

三、みんな仲良く　智をみがき
心と体　練り鍛え
たゆまずはげむ　わが学舎
郷土を愛し　希望に燃えて
明日へ羽ばたく　伊深小学校

▲保育園児に読み聞かせ

▲明るい笑顔であいさつ

▲地域の方による読み聞かせ

▲むかしむかしの話だよ（朗読劇）

【えなしりつえなきたちゅうがっこう】

恵那市立恵那北中学校

学校のたからもの

●住所　〒509−7207　恵那市笠置町河合980
●TEL　(0573)27−3133
●FAX　(0573)27−0018
●メール　enakita-j@ena-gif.ed.jp
●生徒数　91名(H26.5.1現在)

◀斬新なデザインの校舎

学校の教育目標　「求めて学び　鍛え合う」

学校や地域の自然や風土

平成九年四月に飯地中学校、中野方中学校、笠置中学校の三校統合により、恵那市立恵那北中学校として開校し、今年度十八年目を迎えました。

近くにはロッククライミングで有名な笠置山、木曽川を抱く笠置峡があり、四季折々の風光明媚な環境です。生徒の中には各地域の伝統芸能（お囃子、踊り、歌舞伎等）に参加し、継承者として地域に貢献している者もいます。また、昨年度、一年生は、笠置町が力を入れている「ゆず」に関する町おこしの講演を聴き、「ゆずもぎ体験」を実際にして、自分たちの住む地域の良さを体感しました。

学校の教育目標

「求めて学び　鍛え合う」のもと、目指す校風として

○より高い文化を求める
○明るく調和の取れた生活を求める
○心を育てる環境を求める

ために、教職員が生徒と力を合わせて、教育活動を展開しています。

学校のたからもの❶ 小規模校の特性をいかした縦割り活動

本校では、学年縦割り班を中心にして、いくつかの行事が行われています。主なものは、「体育大会」・「駅伝大会」です。この、縦割り班は、スポーツテストの記録をもとにして、学年・男女のバランスを考え、走力が均等になるように十四の班に分けています。

「体育大会」では、この十四の班のうち、七班ずつが組み合わさって二つの団になります。六月五日には、縦割り班の顔合わせ会が行われました。リーダーを中心に、体育館で円になり、自己紹介を行いました。この中で、三年生は、リーダーとして班のとりまとめを行います。今の三年生は、二年生の時に、「絆の会」で卒業生に向けて、縦割り班で感謝の気持ちを表していました。あれから、四ヶ月しか経っていませんが、今回の様子を見ると、一段と成長したと感じます。

▲縦割り班での顔合わせ会

六月十七日には、この縦割り班を使って、「自学交流会」が行われました。各自、自主学習のノートを持ち寄り、互いの良いところを学び合おうとするものです。

三年生にとっては、手本となる姿を示すと共に、低学年のノートであっても、良いものは良いと認める姿勢が求められます。低学年にとっては、先輩の自主学習の仕方を学ぶと共に、リーダーとしてのあり方を学ぶ機会になります。このように、縦割り班は、リーダーを育てる機会を多くするとともに、互いを尊重する気風を育てます。

▲縦割り班での自主学習ノート交流

学校のたからもの❷ 学校の伝統である合唱

恵那北中では、ここ数年、合唱に力を入れています。十一月の合唱祭や三月の卒業式に向けて、日々合唱の練習をしています。文化委員会の企画で、学年を越えた合唱交流会も行います。各学年が一クラスしかないことから、他学年に合唱を聴かせ、感想をもらうことは、大きな刺激や励みになります。また、合唱を通して、学級の問題点や課題を解決していこうとする姿もあります。つまり、合唱を通して学級づくりをしています。

さらに、教職員、保護者もそんな生徒に負けないように、合唱に力を入れています。合唱祭の二ヶ月前から毎週練習を重ね、合唱を披露しています。わずか一曲ですが、外部からの指導者を招き、質の高い合唱を創り上げています。姿で生徒に示すことができる恵那北中のＰＴＡです。

▲合唱交流の様子

▲PTAコーラス隊の練習の様子

校歌

恵那北中学校校歌

作詞　後藤左右吉
作曲　江口浩司

一、朝霧のなかに生まれて
けだかくも　ああ　笠置山
うたえ北中　たたえよ北中
ハナノキに願い託して
いま仰ぐ空の深さを

二、生きること　それは輝き
学ぶこと　それは礎
眉あげて　駆けてゆこう
青春の光と風の中へ

三、山並みの姿うつして
ゆたかにも　ああ　木曽川よ
すすめ北中　かがやけ北中
友情の歩みたしかめ
いま思う道の遠さを

学校のたからもの❸ お互いの良さを認めるアイ活動

生徒会を中心に、仲間の良いところを見つけるアイ（愛）活動を行っています。一般的に、相手の悪いところは努力しなくてもよく見えてきます。しかし、悪いところばかりに目がいけば、人間関係がぎくしゃくして、やがては差別やいじめまでに発展する可能性があります。そうならないために、相手の良さを見つめ、全体へ広げていく活動がこのアイ活動です。

アイ活動は、多くの場所、機会で行われます。学級では、毎日の帰りの会でアイ発表の場を設けて交流しています。行事とも関連していて、体育大会、駅伝大会では団、縦割り班ごとに仲間の光る姿を全体の場で交流しています。「～してくれてありがとう。」の段階から「こんな思いがあって、仲間のために～をしている。」という心に触れる内容へのステップアップを期待しています。昨年度後半から、同じ学年以外のアイ発表を全校で繋ぐ、全校アイの輪を始めました。給食時、ランチルームで毎日一人の生徒が仲間の良さを紹介し、紹介された生徒がまた仲間の良さを見つけて、リレー方式で繋いでいきます。形として残すために、アイ活動に関わる掲示物も作成しています。部活の片付けを率先する姿や、異学年の仲間に声をかける姿など、心温まるエピソードを私たち職員も知ることができます。

校長を中心として、私たち教職員、保護者は、「小さな学校ではありますが、社会に出てたくましく生きていく生徒を育てたい。」と考えています。そのための基礎作り（根っこ張り）を今、これらの活動を通して、行っています。

▲アイ発表の様子

アイの輪掲示物▶

Contents

岐阜県PTA連合会子育て情報機関誌
平成26年9月1日発行／第66巻2号
通巻第434号

わが子のあゆみ

2014.9 No.434 初秋号

表紙　山県市立桜尾小学校

学校のたからもの 1
岐阜市立早田小学校／大垣市立青墓小学校／美濃加茂市立伊深小学校／恵那市立恵那北中学校

わが家の宝物　各務原市立川島中学校PTA会長　青井秀樹　9

特集　定期大会講演抜粋<前編>「子どもの心のコーチング」　11
NPO法人 ハートフルコミュニケーション代表理事　菅原裕子さん

家庭教育応援団！⑫　岐阜県教育委員会社会教育文化課　17

シリーズ「療育」⑰　岐阜県立関特別支援学校　19

お弁当の日　岐阜市立岐北中学校PTA　21

保健室ノート　美濃加茂市立太田小学校養護教諭　小出典子　23

私の先生⑫　養老町立養老小学校教頭　河瀬実浩　25

子育て半生記　岐阜市立長森中学校PTA副会長　早川美智代　27

ボランティアニュース [vol.1]　29
関ケ原町立関ケ原小学校PTA
大野町立大野小学校PTA
輪之内町立輪之内中学校PTA
大垣市立墨俣小学校PTA

私が出会った1冊の本 [続18]　31
本巣市立席田小学校PTA　汲田雅司
関市立下有知中学校PTA会長　松田慎司

わが家のルール　33
関市立武儀中学校PTA　森裕美子
不破郡垂井町立宮代小学校PTA会長　吉野昌樹

子の思い・親の願い・教育の窓　35
子の思い
大垣市立中川小学校　2年　竹中晴き
各務原市立蘇原第二小学校　6年　半田希空
郡上市立白鳥中学校　3年　田中あみ
親の願い
恵那市立岩邑中学校PTA会長　福平栄久
加茂郡白川町立蘇原小学校PTA会長　藤井正人
教育の窓
大野町立中小学校校長　杉山多美子
山県市立伊自良中学校教諭　伊藤綾花

親子ではてな　40
インフォメーション　41
お試しクッキング　岐阜県学校栄養士会　42
とりトマ丼

ふるさとの伝承
大垣市立西小学校　43

きらり！キッズ！
下呂市立中原小学校　45

夢中！熱中！我らが部活
中津川市立坂本中学校　47

私たちのPTA
郡上市立小川小学校PTA　49

わが家の宝物

各務原市立川島中学校PTA会長
青井 秀樹

この原稿依頼をお受けしまして、わが家の宝はわが子しかないと思っています。

そんな矢先、衝撃的な事故が川島校区で起こりました。木曽川河川での他県の三人の子どもが亡くなった水難事故です。夏休みを前に子どもたちも気の毒ですが、未来ある子ども(宝)が亡くなってしまったその子たちの親御さんの無念さが、同じ子どもを持つ親として痛いほど伝わってまいります。

わが家にはふたりの子ども(宝)がおります。ひとりは中三の女子で、中二の時から、不登校になりました。今はあすなろ教室(教育支援を目的としたリハビリ学級)で少しずつですが、学校復帰に向けてがんばっております。親としては受験を控え、何かとあせるのですが、カウンセリングの先生の一言で悩みが少し軽くなりました。

「子どもは、親が悩んでいる事も、こうして欲しいという事もすべて理解してますよ！〝生きてさえいれば何とかなる〟」と……。

親としては、ましてやPTAの役員の子が、まさか不登校ではと、世間から後ろ指をさされる思いでしたが、子どもも親の気持ちを察してか、将来の目標を持つようになり、幸か不幸か、以前より前向きに生活するようになりました。

そして、これから何十年先のある子どもの数年間の不登校など、長い人生から見れば、本当に些細なことだと思えるようになりつつあります。

もし、同じような境遇の子どもを持つ保護者の方がいましたら、ぜひ、あせらないで下さい。私がこう思えるようになったのも、二人の子ども(宝)とじっくり向きあうことができたからではないかと思っています。

今は、子ども(宝)といるこのとき(時間)を楽しんでいます。いつかその宝は色んな輝き方をするはずだと信じて。

特集

定期大会講演抜粋＜前編＞

「子どもの心のコーチング」

NPO法人
ハートフルコミュニケーション代表理事
菅原裕子さん

※平成26年6月12日に行われました第35回定期大会記念講演の内容を抜粋して掲載しました。　編集部

皆さん、こんにちわ。今日は「子どもの心のコーチング」と題して、いかに子どもを自立させていくかについていろいろな観点から皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

今、ご紹介いただきましたように、私は企業における人育て、人材開発のコンサルタントという仕事をずいぶん長い間してきました。子育ての専門家ではありません。

私の中に、「人育てと、子育てと違っていいはずがない」という考え方があります。今日、お話しする内容は、私が人材開発という企業における人育てで学んだことをそのまま、相手を子どもと置き換えてお話しをしていきます。私がまさに自分の子育てをしたやり方でもあり、多くのお父さんやお母さんに共感をしていただいてる内容でもあります。

◇情報に振り回されないで「子育ての軸」を

皆さんにひとつお願いがあるのですが、私は子育てに詳しいわけではありません。なので、私が皆さんにお話しする事を、信じないでいただきたいのです。

世の中で、子育てにおける問題の一つは何かと言うと、他の情報と同じくらいに、子育て情報はあらゆる方面からあふれています。新しい情報に触れると親たちは、ああ言ってるよ、こう言ってるよ、とその情報に飛びついたり、その情報を聞いて不安になったり、いろんなことが起こります。子育ての中で、一番大きな問題は、私たちがそんなふうに、子育ての情報に振り回されることです。親が情報に振り回されてる間、子どもは何を見たらいいのかが分からない。結局子どもも、振り回されてしまう、ということになってしまうんです。

子育てで一番大事なのは、何であれ、それぞれのご家庭で「わが家は」っていう子育て軸を、お立てになることだと思います。今日も私から新たな情報が皆さんに伝わります。菅原さんがこう言ってたよ、それだけの理由で鵜呑みにしてはあまり良くないと思います。新しくないかもしれません。飛びつかずに、うーん、うちはどうだろうと、皆さんの子育て軸を立てる材料に、是非使っていただけたらと思います。

◇子どもの自立

そこで、ハートフルコミュニケーションの提案は「子どもの自立」です。なぜ、自立が重要であるか。これは、言うまでもありません。自立している子どもには、考える力があります。自立している子どもは、何かを選択することが出来ます。自立している子どもは、自分の幸せな道を選択することが出来ます。

私は子どもを育てていて、子どもに何を一番望むかというと、「子どもに幸せになってほしい」ということです。子どもが小さい頃は、私が付いて歩いて子どもの幸せを、子どもの安全を確保することはそれほど難しいことではありません。皆さんもそうだと思います。

ところが、かなり早い時期に子どもは一人で出かけ始めます。幼稚園に行きます、小学校に行きます、中学校へ行きます。もっと広い社会へ出ていきます。その時に、私が付いて歩いて、子どもの幸せを安全を守れるかというと、守れません。

どうしたらいいの？私にできることはたった一つです。子どもが、自分の安全を、自分の幸せを守れるように、自分の人生を幸せに導けるように、そんな力を子どもに付けていく。それが私の仕事だと思いました。おそらくみなさんも、全く同じだと思います。

◇私たちは、自立のために何をするか

自立というのは、その力です。子どもを自立させるために、じゃあ何をしたらよいかについてお話を進めていきたいと思います。

まずは、子どもの年齢と親の役割です。

ゼロ歳の子どもは出来ないことがたくさんあります。赤ちゃんは、自分で移動はできません。自分でお風呂は入れません。自分でおっぱい飲めません。自分で着替えもできません。なので、赤ちゃんのために私たちは手を出し、口を出し、赤ちゃんの出来ないことを、すべて代わりにやりました。つまり、出来ないので私たちは子どもを助けました。

ところが、人間の成長ってすごいですね。一年もたたないうちに、子どもはいろんなことが出来るようになります。自分で移動を始めます。食べ物を手に持って、自分の口に持って行くようになる。この頃の成長というのは、物凄いです。一歳になり二歳になり、どんどんいろんなことが出来るようになります。

出来なかったから手を出し口を出し、代わりにやった私たち親は、子どもが出来るようになったら、何が必要か。子どもの出来ることを、見守る、サポートするという在り方が大切になってきます。つまり、できないから手を出した保護者から、出来るから見守る親へと私たちも成長していきましょう、という提案です。

◇ヘルプとサポートの違い

つまり、保護者と親は違う、ヘルプとサポートとは違う。ヘルプは代わりにやること、助けること、サポートは本人がやるのを見守ること。とても大きな違いがあります。このヘルプ・サポートの違いは随分いろんなところで紹介していただきました。

みなさんのご記憶にあるかもしれません。十年以上前です。「ドラゴン桜」というコミックがあったのを、覚えておられますか？あのコミックがドラマになった時、主人公のセリフに私がこの本に書いたヘルプとサポートに関しての一文が使われました。

『飢えている人がいたら、あなたは魚を釣ってあげますか？それとも、魚の釣り方を教えますか？』というものです。

飢えている人に魚を釣ってあげるのは、尊い行為です。魚を釣ってあげる限り、その人は飢え死にすることはありません。でもずーっと魚をあげ続けたらどうでしょう。その人は、自分の力で生きることは学びません。

魚の釣り方を教えるのは、サポートです。でもこれはやっかいです。なかなか上手くならない。自分でやってごらん、と言っても「めんどくさい」だの「いや」だの、いろいろ言います。でも、いったん自分で魚が釣れるようになったら、もうその人は私たちを必要とはしません。自分の力で生きていける。それが、ヘルプとサポートの違いです。私たちはヘルプする保護者から、サポートする親へと成長しようという提案です。

◇マネージャー、スポンサー、コーチ

保護者はわかりやすいです。子どものできないことを、ぜーんぶ代わりにやればいい。じゃあ親って、サポートするって何するの？具体的にはどんな役割？っていうことで、親の役割をいくつか紹介しましょう。

まずマネージャーという役割は、しばらく続くと思います。子どもは自分のことがいろいろ出来るようになったとは言え、まだまだ上手くいかない時もたくさんあるので、時には手を貸すということも必要になると思います。

スポンサーという役割は、これは長く続きますね。教育が終わるまで、私たち、父・母はがんばります。そしてもう一つ、今日皆さんにご紹介したい役割は、「コーチ」という役割です。コーチは、選手の才能を引き出します。でも決してコーチは、選手の領域を侵すことはありません。

選手の領域を侵すって、どういうことでしょうか？皆さん聞いたことありますか？選手が、今日ちょっと調子悪いので、私が代わりに競技に出ます。選手の代わりに競技に出るコーチの話って聞いたことありますか？ありませんね。絶対にそれはないです。

でも、親という名のコーチは、ちょくちょく、ひょっとしたら頻繁にあるかもしれません。子どもの代わりに、試合に出ようとするんですね。出ちゃってる親もいます。心当たりありませんか？

◇ママが描いた絵

あるお母さんがお話ししてくださいました。お母さんの目に涙が溜まっていました。「私は娘を傷つけちゃった。」っておっしゃるんですね。どうしたんですか？って聞いたら、小学校二年生のお嬢さん、夏休みの宿題がなかなか終わらない。気をもんでいたんですが、ついに八月三十日、手伝うわと言って横に付いて、励ましました。でも終わらないんですね。そこで八月三十一日、お母さん、絵を描きました。小学校二年生らしい絵を。それで問題は解決しました。つまりお子さんの宿題は全部終わり、お嬢さんはその宿題を持って学校に行きました。

ところが、そこから次の問題が起こってきました。絵が上手いということで選ばれて、貼り出されちゃったんですよ。お嬢さん蒼くなって帰ってきて、「あれ、ママが描いたんだよね」。でも、お嬢さんはそのことを誰にも言えないし、お母さんも誰にも言えないし。私と娘だけの秘密です。主人にも言ってません。多分、私は娘を傷つけたと思います。けっこう、長い間貼ってあったそうです。

親と言う名のコーチは、けっこう子どもの領域に出て行って、子どもの代わりにプレーをしちゃうんですね。

◇小学校への入学までに

さて、ちょっと皆さんに考えていただきたいことがあるんですけど、子どもが大きくなるにつれて保護者の要素がだんだん減っていくにつれて、親の要素がどんどん増えてきます。そして、ここが保護者いいよ、という時ですよね。あとは親として、つまりマネージャーとして、スポンサーとしてコーチとして見守れば、子どもは十分にやっていくよ、っていう子どもの年齢は大体何歳ぐらいだと思われますか？

それでは、お席のまわり二～三人で「何歳？」って話し合ってみてください。ミニディスカッションタイムにします。どうぞお話し下さい。

はい、皆さんありがとうございます。

では、何歳ぐらいだと思われますか？マイクが行きますのでご協力ください。「十五歳」「十歳」「六歳」「十二歳」「七歳」、もうちょっと「十歳」、もう一人「十二歳」。

ありがとうございました。これは、あくまでも私たちの提案です。小学校に入学するまでに基本的な自立をさせて小学校に入学させましょうという提案です。

実は、ここ十五年ほど、岐阜はどうですか？東京では年々子どもが幼児化していて、小学校一年生は小学校ではなくて保育園の延長だそうです。ですから、小学校一年生を担任する先生は大変苦労されると。最近聞いた話では、中学校一年生とは言わないそうです。小学校七年生だそうです。どんどん子どもが幼児化しているといわれています。

私たちは小学校に入学するまでに、ということを言っています。そうすると、中学校へよくお話しに行きますが、どうなると思います？「あーぁ、もう遅い」。

国が豊かになり親が豊かに鳴り、子どもが少なくなり、おそらく一人ひとりの子どもにかかる手が増えてくると、子どもたちの幼児化も進んでいくということだと思います。

どうやら、親も意識を少しずつ変えていく必要があるのではないかなと思います。

◇あいまいな言葉「しつけ」

では、子どもの自立をサポートするために、私たち親は何をしたらいいか。私はこんなことを二十年前から言ってきました。そしたら「菅原さん、それは言っちゃいけないよ」って言われました。「そんなこと言ったら、世の中から誤解されるよ」年輩の方からでした。そうですか、と言いながら、ずっと言い続けています。それは、子どもの自立をサポートするために、「もう、しつけはやめよう」ということです。

すると「それってダメでしょ、しつけが出来ていないからダメなんでしょ」とおっしゃいます。そうですね、じゃあしつけってなぁに？非常にしつけっていう言葉はあいまいなものです。何がしつけかが分かっていないので、時々言い訳に使う人もいます。「しつけるつもりだった」。その位、しつけって何の事だかよくわからない、ということがあるので、より具体的に子どもに何を教える必要があるのかを、お話ししていきたいと思います。

◇三つの力、その一「愛すること」

子どもの自立をサポートする三つの力、この三つを教えてください。この三つを教えることに成功したら、子どもは自然にしつかっていきます、というのが私たちの提案です。

その三つとは、愛すること、責任、人の役に立つ喜び。この三つです。

一つずつ見ていきましょう。

まず、愛することを教えてください。愛することを知っている子ども。一番いいことは、その子が自分のことを愛することが出来ます。自分のことが好きになれる、自分のことが好きになれる人は、人が好きになれます。自分が好きで人が好きで、と言う人は、世の中から愛されます。

◇自己肯定感

愛することを学んだ子どもの中には、自己肯定感というのが育ちます。私はこれでいい、という感覚です。私はここに居ていい人間であると。もっと進んでいけば、私はここに居るべき人間であるという感覚ですね。この感覚を持っている人たちは、大変幸せです。子どもの自己肯定感は、キラキラ輝いています。大人の自己肯定感は、ちょっといぶし銀がかかります。「しゃーないなー、こんな私。また失敗しちゃったよ、と。まあ、でもこんな自分を連れて行ってあげようと。これが、私の人生」と。これが大人の自己肯定感です。子どもほどキラキラはしてないかもしれない。いずれにしても私はここに居るべき人間であると。この感覚ですね

自己肯定感の対極にあるのは、自己否定です。究極の自己否定は、自殺です。

時々、こんなふうにおっしゃる、お父さんお母さんがいらっしゃいます。「菅原さん、うちは子育てしくじりました」って。そんなこと言っちゃダメですよ、って言うんですけど。もし世の中に、子育てをしくじるというようなことがあったら、もしあったとしてもこれだけはしくじれません。これだけは、絶対にしくじれません。それは、命を支える感情です。子どもに、自己肯定感を与えましょう。子どもに、愛する事を教えましょう。

◇子どもへの愛、伝わっていますか

じゃあ、どうやったら子どもに自己肯定感を与えられるか。愛することを教えられるか。方法は、たった一つです。子どもを、私たち親が愛することです。そんなふうに言うと、皆さん多分、今思われたと思います。「あー、だったら大丈夫。私は本当に、子どものことを愛してるから。本当に子どものこと大事に思ってるから。」みんな、親はそうです。でも問題は、それではありません。その愛、子どもに伝わってますか？と、言うことです。

子どもの意識がどんなふうに育つかということについてのお話しをしていきたいと思います。

一人の人間が育つ過程で、その意識をどう育てていくか。

みなさんお聞きになったことないですか？実は人の意識は、よく氷山にたとえられます。氷山を見ると、私たちは「氷山だ」と言っている氷山は、あの水面上に出ているあの小さな部分です。ところが、氷山の本体は、水面下に隠れている。あの大きな体積。あの部分が氷山の本体です。ですからあの部分は、水の中に隠れていますから私たちの目に触れることはありません。

人間の意識も、これと同じだと言われています。人間の意識というのは、とても大きなものがあるそうです。ところが、私が私の意識として認識できるのは、意識上にあるあの小さな部分のみ。あの部分を私は私として認識することができます。私たちが自分で体験できる意識のことを、顕在意識と言います。そして自分の意識でありながら、自分では体験できない意識のことを潜在意識または無意識とも言います。

◇気質と環境

ある子どもの意識が、「ぼくはお父さんに大事に思われてる。あ、お母さんて私のこと大好きなんだ」と言うふうに、愛されているという実感を持ちながらどんな風に育っていくかを考えてみましょう。

要素は二つあります。一つは、持って生まれた気質があります。これは生まれつきなので、私たちが基質そのものに影響を与えるということはできません。でも、気質があることは皆さんもご存じで

すよね。同じ親から生まれてきてるのに、三人いる子ども三人とも、ぜんぜん違う。そういう体験しておられる方多いと思います。一人の子はすごく育てやすかったのに、もう一人の子は何でこんなに難しいの?と。これ、気質の違いです。

もう一つは環境です。環境は、私たち親が与えるものです。なので、私たちが大きく影響を与えることが出来るわけです。

さて、この子どもの意識がどんな環境で育ったか。ちょっと絞りましょう、環境を。親という環境に絞ってみたいと思います。親と言う環境もまだ大きいので、親の言葉がけに絞ってみたいと思います。皆さんどうですか?日常的に、愛するわが子に、どんな言葉がけをしておられるでしょうか。

◇マイナスの言葉がけ

実は、愛するわが子にマイナスの言葉がけをする親がいます。マイナスの言葉がけというのは、言われた子どもがイヤーな気分になる言葉がけですね。皆さんはそのようなことはなさらないと思います。でもいるんですよね、朝っぱらから「早く起きなさい、もぉー、いつまで寝てんの!」から始まるそうです。

子どもが起きてくると「何グズグズしてるの、早くしなさい!何時だと思ってんの、あんた!」。子どもは慌てて朝ごはんを食べて出かけます。帰ってくると、又始まるそうです。「早く!、手洗って!」「靴下、こんなとこへ、置かないでよ、もぉ!洗濯機の中よ、何べん言えば分かるの!」。皆さんは言わないですよね。

これはね、どういうことかと言うと、言われた瞬間、子どもはイヤーな気分になります。一回言われたら、子どもは、いやな気分になりますが忘れてしまいます。二回言われて、別にどうってことはないです。三回言われても、どうってことはないです。でも、問題は三六五日、繰り返し繰り返し言われていると、実は言われた時のイヤーな体験が潜在意識の中に擦り込まれていくといわれます。脳の中に物事をマイナスにとらえる回路を育てているということです。

すると、十分に擦り込まれたマイナスの意識は、日々の生活の中で子どもに表れやすいということです。皆さんのお家ではどうですか?

◇プラスの言葉がけ

多分皆さんはプラスの言葉がけ、つまり子どもが言われたときに「よーし!やってみよう!もう一回頑張ってみよう!」と思うような言葉がけをされていると思います。このようなプラスの言葉がけを頻繁に受ける子どもの潜在意識の中には、プラスが印刷されています。そうすると、この子どもの日々には、プラスが起きやすくなる。

脳の話をするとすれば、子どもの脳の中に物事をプラスの方向にとらえようとする回路が作られていくということですね。

問題は何かと言うと、私たち親は、しつけと称して、子どもが出来てないことを探す目で子どもを見ます。出来てないことを探すんですね。出来てないことを見つけて「何やってんの、早くしなさい。こうでしょ、そうじゃないでしょ」。これがしつけだと思っている。

ところが、これを言い続けられた子ども、マイナスのメッセージを言い続けられた子どもの中には、ひょっとしたらママは、僕のことをキライかもしれない。という意識が育ってもおかしくはないです。実に数多くの親たち、お父さんやお母さんたちが子どもにそう言われる場合があります。この間も、あるお母さんが言ってましたね。中学生になる息子とバトルしていた最中に、息子の方が、フッと言葉を止めて、じーっとお母さんを見たそうです。お母さん「何よ」。そうしたら息子さんが冷静な声で言ったそうです。「お母さん、怖い。嫌いだ」。何で私が一生懸命育てた子どもに、こんなこと言われなきゃいけないの、って思ったとおっしゃるんですが、メッセージがマイナスばっかりだったら子どもがそう思っても、無理はないかもしれません。

◇本当のしつけ

本当のしつけは、皆さんご存知ですか?本当のしつけって、出来てることを探して、そして「あ、それそれ。ほー、出来たねー。よく頑張ったじゃないー。有難う。」これ本当のしつけなんですね。でも私たちは、なかなかそれを知りません。だから、マイナスの言葉を言い続けるんです。そうすれば子どもがもっといい子になるんじゃないかと。そう思って。

この話をしたときに、面白い話をしてくれた三人の男の子を育てているお母さんがいました。一番下の子が小学校へ入学したときに、家族で犬を飼うことになりました。ペットショップで犬を買ってきました。せっかくの犬だから、賢い犬に育てたいと思ってお母さんは本屋へ行きました。そこで「賢い犬の育て方」という本を買い、その本に書いてある通りに育てました。そうしたら、本当にかしこい犬に育ったと言われました。ある時、その犬とお母さんが遊んでいたら、小学校一年生の子どもさんがじーっと見てこう言ったそうです。「お母さん、ぼくも犬になりたい」。そう言って、犬小屋に入ったんですって。お母さん、何を言われてるのかわからなくて、「何言ってんの、あんた!」と言ったそうです。そして「このことですか?」と言われました。そうです。そのことです。

みなさん、賢い犬の育て方ってご存知ですか。賢い犬は、必ずプラスで育てられます。テレビでも時々やってます。盲導犬とか警察犬になるような、大事なお仕事をする犬は必ずプラスで育てられます。そのあと、厳しい訓練に入るんですね。マイナスで育てられた犬は、大事なお仕事はできないそうです。人間に対する信頼感が無くて。皆さんのお子さんを犬と一緒にするつもりはありませんが、私は人間も一緒だと思います。マイナスでマイナスでマイナスで、しかも時には暴力を振るわれて育った子どもは、決して人を信じるようにはならないと思います。

愛することを教えるということは、私たちの中にある愛情を、そのまま、真っ直ぐに伝えていくことだと、私は提案をしています。

◇日ごろの言葉に意識を向けよう

みなさんどうですか、日常の言葉がけ、どんな言葉がけをしておられるでしょう。私たちが親として成長するための第一歩は、掛けている言葉の事実を認めるところから始まります。どんな言葉がけをしているか、その事実さえ認めることが出来たら、私たちは一歩成長することが出来ます。

皆さんの日ごろの言葉に意識を向けてみませんか?親が何かをちょっと変えるだけで、子どもはすぐに反応してくれます。ほんのちょっと言葉がけをプラスに変えてみてください。そして、愛しているということを、大事に思っているということを教えていきましょう。愛することを教えましょう。

…続く

家庭教育応援団！
～家庭教育学級取材記～

実践紹介１
養老町立養老小学校・広幡小学校・上多度小学校・池辺小学校・笠郷小学校・養北小学校・日吉小学校・高田中学校・東部中学校

ポイント　小中学校の連携を通して　一つのテーマをより深く

養老町では、“ケータイ”や“スマホ”といったネットが身近にある環境の中で、子どもたちの安全を守ることが深刻な課題であるととらえ、町内の7つの小学校と2つの中学校の家庭教育学級が連携して取り組んでいます。その一部を紹介します。

講演会　家庭教育学級&人権教育研修会

ネットトラブルと予防法
～ネットの危険から身を守るために具体的方法を学ぶ～

安川（やすかわ）　雅史（まさし）先生

ネットを巡る多くのトラブルに対処された講師の経験から、実際に起こったトラブルの具体例を紹介していただき、防止策や対処法を学びました。

【講師の言葉より】
- 文字だけで伝えると誤解をうみやすい。
  大切なことは相手の顔を見て伝える。
- ネットの情報には嘘もある。
- スマホは携帯電話ではなく、パソコンである。
- ウィルス対策ソフトを入れる。
  （ショップで推奨するものが安心）
- 今自分が書き込んだことは、この先一生背負っていくことになる。
  ブロックは知識のある人ならはずせる。
  →書きこみをした人物を特定される。
  →実名がネット上でさらされる。
  →自分の家族や友達のプライバシーもさらされることになる。
- 人に不快な思いをさせる情報を載せない。
- フィルタリングは命を守る。

ネットトラブルと予防法の講演会は、7月3日、4日の両日を通して計4回開催されました。町内、全小学校の第6学年児童と全中学校の生徒が参加し、400名を超える保護者や地域住民の参加もありました。

今後は、親子のコミュニケーションと家庭での約束づくりを内容とする「在宅取組型」の活動を行っていく予定です。

実践紹介２　関市立下有知小学校

ポイント　多くの人が集まる機会をとらえて
子育ての活力となる「子育てサロン型」を定着

下有知小学校では、昨年度実施された学級懇談会の際に、毎回子育てサロン型の取組を位置付けました。多くの人が集まる機会を生かして、保護者が少人数のグループで悩みを話し合い、子育てのヒントをつかむ場を繰り返し位置付けることで、保護者同士のつながりと子育てへの活力を生み出しました。

第1回子育てサロン（6月28日）
- 学年別にテーマ設定

１年：「帰宅後の過ごし方」　　４年：「家庭学習の取り組み方」
２年：「はし、鉛筆の持ち方」　　５年：「親子のかかわり方」
３年：「おこづかいのあげ方使い方」　　６年：「親子のかかわり方」

- テーマは事前アンケートをとって、その結果をもとに決定しました。

↓

第２回子育てサロン（12月６日）
- テーマ：「ゲーム機やネットと上手に付き合うには」
- 11月７日に実施された情報モラル講演会「知らないと怖い、ネット社会の危険」（講師：酒井統康氏）を受け、より多くの保護者で情報や知識を共有しようと全校統一テーマで実施しました。

↓

第３回子育てサロン（１月31日）
- テーマ：「ふれあいノートについて」
- 事後アンケートを実施し、子育てサロンで交流された内容やアンケート結果は「家庭教育学級だより」で広く紹介しました。

下有知小学校の取組は、県のHPで詳しく紹介しています。どうぞご覧ください。

○まねることは学ぶこと

いろいろな地区の家庭教育学級を見せていただく機会があります。どの学級でも、それぞれの学校や保育所、幼稚園の実態に応じて、課題を考え、ねらいを設定し、それを達成するための方法を工夫しながら進めてみえます。過去の実践例を県のＨＰに掲載していますので、「これはいいかも」と思う取組がありましたら、どうぞ取り入れてください。学びの第一歩は「まねること」だという言葉もありますから。

乳幼児期のお子さんをもつ保護者の方の学びのプログラム「みんなで子育てⅡ」を岐阜県教育委員会社会教育文化課のＨＰにアップしました。悩みを共有しながら学べる「子育てサロン型」のプログラムです。ダウンロードしてそのままお使いください。

編集後記

お気軽にご相談ください！
家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます

岐阜教育事務所	☎058-278-3059	（直通）
西濃教育事務所	☎0584-73-1111	（411）
美濃教育事務所	☎0575-33-4011	（437）
可茂教育事務所	☎0574-25-3111	（440）
東濃教育事務所	☎0573-26-1111	（369）
飛騨教育事務所	☎0577-33-1111	（424）

県のホームページでは、他にも家庭教育学級の情報を発信中！
ぜひご覧ください！！
岐阜県　家庭教育学級　検索
－掲載内容－
- 平成23～25年度家庭教育学級の実践
- 家庭教育学級マニュアル　◎家庭教育プログラム（乳幼児期編）

岐阜県立関特別支援学校

所在地＝関市桐ケ丘一丁目二

1 学校の特色

岐阜県立関特別支援学校は昭和四十一年に岐阜県における最初の肢体不自由児教育の学校として「県立岐阜養護学校」の名称で設立されました。平成十四年に現在の四階建ての新校舎が完成し、来年の平成二十七年に創立五十周年を迎える学校です。開校初期から高等部が設置され、現在八十七名が在籍しています。また、寄宿舎を併設している学校でもあり、男子十二名、女子七名が集団生活を送っています。校章は五月の花（メイフラワー）とも呼ばれ、「希望」「誠実」等の花言葉をもつさんざしの花を図案化したものです。児童生徒が希望と誠実さをもって、たくましく成長していく願いが込められています。

2 各学部の取り組み

○小学部

小学部では、体験的な学習を重視し、興味・関心を引き出す支援、指導の工夫に努めているとともに、学校間交流、居住地校交流等を通して、多くの仲間と触れ合う機会を作り、豊かな人間性、社会性を培っていけることを願っています。

・自立活動

小学部の自立活動は学級ごとに学習活動を行う「からだ」「うた・リズム」「ふれる」「おはなし」「学級あそび」、個別に行う「こべつ」と、学年を越えたグループ編成で行う「グループあそび」があります。「グループあそび」はねらい別に三つのグループに分かれて活動をしています。ダイナミックな揺れのある遊具遊びを行う中で、教師とのやりとりをしながら思いを表現したり、活動の変化に気付いたりすることをねらいとしたグループ、キャスターカーや滑り台等の児童が好きな遊びを用意し、見通しをもち、自分で遊びを選んだりして、教師や友達との関わりを楽しむことをねらいとしたグループ、かくれんぼやボール入れ等の遊びに簡単なルールや役割があることが分かり、ルールの中で関わりを楽しみながら活動することをねらいとしたグループを設定して学習活動に取り組んでいます。

▲「グループあそび」でのキャスターカー遊び

息子が入学してからの数年間で感じたのは、毎日元気に登校し、一日の活動を繰り返し経験することの大切さです。聞き慣れた音楽が流れた途端、何かが始まるという期待で表情が明るくなります。家ではなかなかできない歩行訓練も、「からだ」の時間で毎日歩いているおかげで、リハビリの先生に「足の力が強くなったね」と褒めてもらえます。そんな時、息子なりのゆっくりとした成長を感じることができ、とてもうれしく思います。

（小学部六年保護者）

○中学部

中学部では、課題学習、発達課題を明確にし家庭との連絡、協力を基盤に確かな学力を育てることを目指すとともに、意欲的な生活態度を育て、将来の社会参加、自立に向けた進路意識をもってもらうことを願っています。

・タブレット端末の利用

中学部では、他学部に先駆けてi-Padを使った学習に取り組んでいます。教科学習では生徒の学びにくさを解消する手立てとして活用し、より充実した内容での授業が展開されています。また障がいの重い生徒でもタッチパネル機能を生かし、姿勢保持の動機付けに使用したり、興味のある音声や画面の提示に対して、自発的に手を延ばす動きを促すための教材として利用したりし、多くの授業で活用されています。

▲教科学習でのタブレット使用

将来のことを考えるのがとても怖かったですが、今では本人ができることを一人で行い、人に言葉で伝えることもできるようになりました。助けてもらえる周りの方にいつも感謝の気持ちを伝えていってほしいと思っています。同年代の仲間の中で成長していってくれること、親も子どもと共に成長していけることを感謝しています。これからも、子どもと共に一日一日学んでいけることを幸せに思います。

（中学部三年保護者）

○高等部

高等部では、様々な社会体験を通して自己理解を深め、生活上の困難を様々な方法を通して改善し、克服し社会参加を目指した実践力を身に付けていけることを願っています。

・校内作業実習、進路体験実習

社会性を身に付け、自分の進路適正を探求し、卒業後の生活につなげていくことをねらいとして毎年六月と三月に校内作業実習、進路体験実習を行っています。校内作業実習は、主に一年生を対象とし、CDやDVDのリサイクル作業を行います。決められた仕事を効率よく集中して行う力を身に付けていくとともに、働くことの基礎や意味を学ぶ場となっています。障がいの重い生徒も補助具を使いながら、一人でできる活動を見付け取り組みます。進路体験実習では、居住地域周辺の企業や福祉事業施設等で実習を行っています。特に、福祉事業施設での実習では、保護者の付き添いを必ず一回は行い、生徒の様子を知ってもらい、卒業後の生活について考えてもらえるよい機会となっています。

▲校内作業実習

はじめて進路体験実習に参加しました。そこでは、商品として売られている物を扱うため、とても厳しくコミュニケーションや服装等のご指導をいただき、大変勉強になりました。まだ、学生だからと気を緩めていたわけではありませんが、実習を通して仕事の厳しさを親子共々感じました。子どもにとって社会人としてのスタートができるよう、卒業までの間応援していきたいです。

（高等部二年保護者）

3 PTA活動の紹介

当校のPTAは本部役員と厚生、進路、広報、学年の四つの委員会で構成され、全保護者がいずれかの委員会に所属し、それぞれの委員会で工夫をこらした活動、研修会を実施しています。また、児童生徒の余暇活動の充実、地域との交流を図る目的で、六つの居住地域ごとに「ホリデーサークル」という名称で、休日にボウリングや買い物等の活動を実施しています。

○ふれあいまつり

ふれあいまつりは、毎年五月下旬の土曜日に行われ、新役員の保護者が最初に取り組むPTA活動です。食品バザー、日用品バザー、ゲームコーナー、アトラクション、外部団体バザー、高等部作業製品バザー等活動内容は多く、その全ての準備運営をPTA各委員会が役割分担をします。児童生徒は、午前中PTAが企画したゲームコーナー、バザーコーナーを回り、午後からはアトラクションに参加し、土曜日の二日を楽しく過ごします。

○非常食試食会

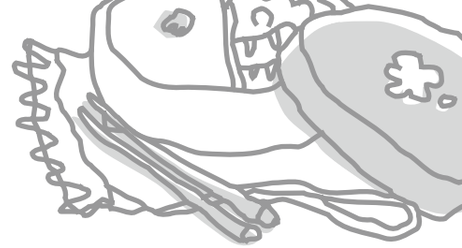
食形態に配慮が必要な児童生徒が多く在籍している当校にとって、食べやすい非常食や便利な非常用グッズ等の情報交換は大切なことです。執行部役員が中心となり、紹介や実食等を毎年一回行っています。

こうした活動のほか、厚生委員会による給食試食会、栄養士との懇談会や救急法講習会、進路委員会による進路研修会や施設見学会、学年委員会による工芸的講習会等を計画し、積極的なPTA活動を行っています。

○PTA会長の声

PTA活動の中で最も大規模で、中心的な活動であるふれあいまつりは、多くの方々にこの学校を知ってもらいたい、子どもたちと触れ合ってもらいたいという願いから始まりました。今年度も地域の方々や学生のボランティアの方、卒業生が働いている福祉サービス事業所の方々等、多くの人に協力をしていただき開催することができました。またこれから予定している「ホリデーサークル」でも、私たち保護者や子どもたちも充実した活動ができるのは多くの方々のご理解とご協力があるからだと感謝しております。

▲ふれあいまつり「バザーコーナー」



お弁当の日

岐阜市立岐北中学校PTA

学校、PTA、生徒会、三者の思いが一つになって「自立記念日」発足！

本校の弁当の日「自立記念日」は、生徒会が全生徒に募集をかけ決定したネーミングです。その名前の通り、生徒会のやってみたい！という自主性をＰＴＡがサポートするという形で発足し、今年で三年目を迎える人気行事です。

献立から調理、片付けにいたるまで、弁当づくりをとおして、生徒たち自身の自立のきっかけにしていきたいとの願いがこめられています。

●自立記念日で食と命に向き合う

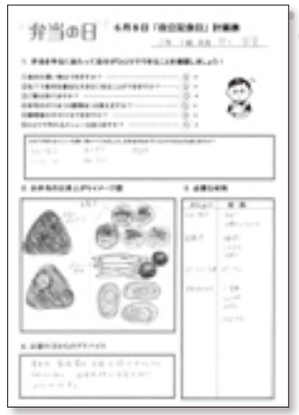
自立記念日は、六月と十一月の年二回。とくに一回目は講演会と日曜参観日がタイアップした本校の一大イベントです

かって、本校生徒が交通事故によって命を落とすという痛ましい事件があり、以来毎年六月第二日曜日は「命について考える日」と位置づけ、講師を招き講演会を行っています。三年前からは食の視点からも命について考えていこうと自立記念日が同時開催となりました。登校時間は普段より一時間遅くして、子どもはしっかりお弁当作りに専念。そして講演会で、命について真剣に向き合い、お昼は自作弁当を食べ、午後から日曜参観日で人権についての授業をうけます。まさに「食」と「命」をこころと体で受けとめる一日になっています。

※二十四年度は弁当の日応援団、佐藤弘先生をお招きし、「食卓の向こうに見えるもの」と題した講演をしていただきました。

健康だいち君
ネーミングとともに生徒からの公募できまったオリジナルキャラクター

案内チラシとレシピ集
ＰＴＡ執行部も父兄あてに協力要請。そして簡単おかずレシピから、キャラ弁特集まで用意し、子どものやる気を後方支援します。



中２女子の自立記念日計画表
この計画表をもとに、事前の校内放送で、「いつもはお母さんが作ってくれるメニューですが、今回は全部自分で作ってみようと思います」と意気込みをアピールしました。

弁当箱のふたをあけるやいなや、そこかしこで大騒ぎ！

リアルだいち君
ＰＴＡお手製リアルだいち君が各教室に慰労訪問！

●子どもが主役、だから自立記念日

自立記念日に先駆け、各生徒は配付された「自立記念日」計画表に思い思いの弁当イメージを書き込みます。精巧なキャラ弁もオッケー、ひかえめにおにぎりだけでもかまいません。すべての生徒が自主的にかかわることが大前提なので制約は一切なし。そのやる気応援団になるのが生徒会です。役員生徒が代わるがわる自分の夢のお弁当計画をできあがりイメージ図とともに全クラスにテレビ放送で配信。お弁当にかける意気込みもあわせて語り、創作意欲を巧みに刺激しています。

●現場の体験が生きる力に

自立記念日に期待するもの。それは子どもたちが自分の力で生きていく、その第一歩となる自分でやりきる体験です。弁当づくりを通して変わりつつある子どもの様子を紹介します。

【中１男子母】

息子は肉が大好物なので、我が家では一日おきに唐揚げや焼肉、特にとんかつは毎週必ず登場です。

自立記念日を前に、息子が「おれ、かつ丼弁当つくってみる！」と宣言しました。

揚げ物で、さらに卵でとじるという高等料理をできるか心配でした。当日、息子は順番を間違えないようにと丁寧にかつ慎重に、小麦粉・卵・衣を間違わないよう仕上げていきます。以前に衣までを手伝ったことがあるからか自信に満ちた顔です。ところが、ふと戸惑いの表情に変わりました。揚げる時間がわからないそう。「かつの色を見ながらやってごらん」と、一言アドバイス。少し焦げめはあったものの、卵でとじたかつが完成！

ご飯にのせるときに少しずれてしまいましたが無事に仕上げることができました。普段の生活で見ることも、そしてそれを実践する経験があることも、自らの力になり成長していくのだな、と感じました。

見よう見まねで一人で作り上げた会心のカツ丼弁当！

キャラ弁花盛り！２時間かけて作ったというつわものも！

自慢のキャラにぎりに両手に満面の笑み！

school infirmary

保健室ノート

●美濃加茂市立太田小学校 養護教諭
小出 典子

児童とともに「歯・口の健康づくり」

「先生、私たち、保育園でも発表できる?行ってもいいかな?」

児童集会で、保健委員会の歯磨きの発表を終えた子どもたち。集会が終わっても興奮冷めやらぬキラキラとした瞳で、私の周りに集まってきました。もう次のことを考えているのです。

美濃加茂市の中心地にある本校は、児童数五百七十人の中規模校です。すぐそばを木曽川がゆったりと流れ、校庭には樹齢百五十年の大銀杏が子どもたちを見守っています。

本校では、学校・保護者・歯科医の先生とが一体となって、歯と口の健康づくりに取り組んでいます。本年度、四月に赴任したばかりの私にとって、太田小の子どもたちの姿には感心させられてばかりの日々です。

一、ハッピー週間

給食後の歯磨きを重点的に取り組む六月の「ハッピー週間」。保健委員が担当するクラスへ行き、歯磨きを呼びかけながら一緒に磨きます。あるクラス担当者は、磨き終えると必ず「今日の歯磨きで気付いたことは、○○さんと○○さんがとても丁寧に磨いていたことです。明日も頑張りましょう。」と、呼びかけているのです。事情を聞くと、「去年、私のクラスに来てくれた保健委員会の人も、そうやってよい所を見つけてくれていたから、私も同じようにやろうと思った。」と話してくれました。

二、児童集会での発表

「先生、発表の練習はしなくていいでしょうか。」委員長が相談に来ました。

六月四日の児童集会に向けて、練習をしなくてはならないのですが、家庭訪問や宿泊研修などが続き、思うように時間が取れません。「では、この日は六年生だけでやろう。」「ここは来られる子だけで。」副委員長と二人で話し合っています。「僕が五年生の連絡係に言っておくから。」いつの間にか、五年生の保健委員へ連絡するための係まで決めていました。「○○さんはしっかりしているし、どの委員の子にも確実に連絡してくれそうだったから。」と、決めた理由を話してくれました。

練習を指導しようとすると、そんな時に限って体調不良などの来室者が…。児童だけで練習しているところを、学校長が励ましに来てくださったこともありました。

保護者や教師とはまた違った形で、「歯磨きは大事」ということが全校児童に浸透していくのではないかと思いました。

三、いよいよ発表

「昔々あるところに、しゅうやさんとそらさんがいました…」で始まる、昔話風の発表です。全校児童は静まり返っています。子どもたちは、大きな歯の模型を大げさに揺らしたり、身長ほどもある大きなハブラシを器用に操ったりして、演じました。木曽川を流れて来た大きな歯から生まれた『ハッピー君』。その陽気なしぐさに、全校は大笑いです。ハッピー君と仲間たちが歯磨きの大切さを全校に伝えます。

四、保育園の園児たちへ

児童集会で発表した内容を、園児向けに少しアレンジしてお隣の保育園で発表することになりました。子どもたちは「やった、保育園の子にも見てもらえる。」と乗り気です。

さすがに園のホールへ入るときには緊張した表情でしたが、ここでも、やはり堂々と小さなお客さんを前に、演じる子どもたちでした。クイズを出す児童の嬉しそうな表情が印象的でした。妹がこの保育園にいるのだそうです。

今思えば、赴任したばかりの私は、彼らにとってはとても頼りない担当に思えたことでしょう。昨年の先輩たちの姿を思い浮かべながら、歯科保健活動に取り組む太田の子どもたちに、励まされ、触発されながら、今日も保健室から何を発信できるかを模索中です。

◀担当クラスで歯磨きを呼びかける保健委員の児童

▲全校児童の前で緊張の発表

▲保育園で「上演中」です。

▲真剣に聞く小さなお客さんたち

◀園児にクイズを出しています。

「私の先生」

養老町立養老小学校　教頭
河瀬　実浩

「明日の土曜日はおにぎりもってこい」

私が小学校六年生のときお世話になった社会科の先生は、私に強いあこがれを抱かせた人でした。先生は地域の歴史について次々と課題をもち、調べ、教材化されていく方で、私たちを月に一度くらいの割合でいっしょに歴史探検につれていってくれる方でした。

私が通った小学校には裏山があり、学校での体力作りにはいつも走って登り降りし、理科の学習では虫や植物を探しにいく学習の場でした。その裏山が実は城跡であるということを知ったのは小学校五年生のときの郷土クラブでの先生の話からでした。

「いつも登っている裏山の広場はな、実は今から五〇〇年とか六〇〇年とか前に建物がたっていたんだ。」

「さらに上へ七〇〇ｍくらい登るとな、もう少し広い広場が広がって、大きな石がいくつか埋められている。」

「でもその建物の建てられた時代やつくり、大きさがわかっていない。」「先生はその大きさや建てられた時期を知りたいんだ。」

先生の姿はとても魅力的でした。先生自身がその城に興味をもち、調べたい課題をもって挑んでいる、そんな姿…そしていつも行く裏山にお城が建っていた…と思いを馳せるだけでわくわくすると同時に、今は埋められた石が残るだけだけれど、建てられたのはいつごろのことなのだろう、どんなお城だったのだろう、どのように使われていたのだろう、などと次々と疑問がわき、調べてみたいな、という気持ちがわき起こってきました。

やがて六年生になり、先生のお世話になることになりました。そして五月のある日、ついに探検の日が来ました。

「明日の土曜日、おにぎりもってこい。昼からいっしょにのぼって広さを調べるぞ！」

当時、土曜日は午前中授業がありました。私の自宅は学校から遠かったので、父母に許可を得て午後から先生と一緒に裏山探検へ行くことにしました。

「この埋められた石と石の間の長さが大切なんや。この石の上には柱が立てられ、屋根や壁があったはずなんや。この柱の間の長さが建物が建てられた時期を調べる重要な情報になる。」

「土器が落ちとるぞ！ここで活動した時期にこれが使われた可能性がある。だから土器の時期を調べれば建物が使われた時期を知る重要な情報になるんだ。」

私の前で、次から次へと先生は調べました。先生は自ら調べる課題をもち、その解決のための資料を手に入れるために自ら調べるのです。私は、先生の話が半分くらいしか理解できていないながらも、先生のぐいぐいと疑問に向かう姿に引き込まれたのです。そして

「ああ、自分も先生みたいに調べたいな。」というあこがれをもちました。どんどん調べようという意欲がわいてきたことをいまも鮮明に覚えています。

課題に向かう先生の姿は私にとってあこがれの研究者でした。そこには、単に教えようとするのでなく、自分の姿で学ぶ喜びを伝える指導がありました。

やがて私も社会科の教員になりました。先生の姿がいつも思い浮かびます。子どもたちに教えてやろうとおごるのでなく、自ら調べたり観察したりして考え、答えを探していくおもしろさを味わう中で、子どもたちと共に学ぶ喜びを味わえる教員でありたいと今も努力の日々です。

子育て半生記

「今」が、笑顔あふれる日々　でありますように…

岐阜市立長森中学校PTA副会長　早川 美智代

忘れもしない平成十九年十一月。私の人生に一大事が起こりました。そうです、小学校のPTA役員に当ってしまったのです。「何で私？無理、無理！出来ないよ。」誰かに言われたわけではないのですが、私には〝PTA役員＝大変!!〟というイメージしかありませんでした。不安と戦いながらも季節は過ぎ、やがて桜の開花の声が聞こえるようになりました。新年度を迎えるまで、あっという間の日々でした。「広報委員長」。それが私の初めての役職です。

委員会として本格的な活動が始まると、広報紙作成への企画や子どもたちの様子を撮影するために、何度も学校へ足を運びました。それまでは授業参観や運動会くらいしか門をくぐることが無かったのに…でも、そのうちにわが子以外のお子さんからも手を振ってもらったり笑顔を返してもらったり、撮影に伺う度にいろんな子どもたちの表情を垣間見ることができました。また、一学期末にはその年第一号の広報紙も仕上がり、委員さん達と共に初めて手にした時は「自分たちの活動が形になった。」と大変うれしく思いました。同時に、私の中には、「PTA役員も楽しいな。」そんな思いも生まれてきました。

あれから七年。とても多くの方々に支えていただきました。一人では難しくとも仲間と一緒であれば乗り越えられる。大切なことも改めて学んできました。そんなPTA活動、「そういえば、自分の親たちはどうだったかな。」ふと、子どもの頃を思い出しました。

私は山々に囲まれた自然豊かな郡上で生まれ育ちました。通っていた小学校は分校で、一教室に二学年が一緒、という複式学級もありました。当時はプールがなく、夏休み中は川で泳ぐ私たちのために、親はガラスの破片など危ないものがないか清掃をして環境を整え、また、雪の降り積もる冬には朝早くから除雪車の通れない細い道の雪かきをして通学路を確保してくれたことを覚えています。小さな分校でしたが、愛情あふれた温かな小学校でした。

中学生時代においては親が関わることがほとんどなかったように思います。しかし高校生の頃を含めて常に陰で支えてもらいました。おかげで勉強と部活に追われながらも、一所懸命に頑張ることや今を楽しむことを学んだ貴重な日々だったと思います。私はPTA活動をする中で、心の温かさも大切にしてきたつもりですが、それは、お世話になった先生方や親の姿を受け継いでいきたい、との思いからです。

昨年度、私たち長森中学校PTAは、岐阜県PTA研究大会において実践発表を行いました。「しょく」をキーワードとし、「食」である食べること、「職」である働くことについての発表でした。役員が集まり、子どもたちに「笑顔」と「感謝」を大切にしてほしい、との思いで当日まで打ち合わせや台本の読み合わせなどの日々を送りました。発表の際には大変緊張しましたが、終わった時にはみんなの笑顔があふれ、改めて感謝の思いでいっぱいになりました。

こうした活動を続けてきて、有り難いことに自分の周りには優しく頼もしい仲間がたくさんいます。志を共にし、子どもたちのために、と励まし合ったり一緒に頑張ってきた大切な方々です。そして子どもたちに伝えたいのです。「あなたの隣には、支えてくれたり力になってくれる人が必ずいます。気負わずに、いろんなことに挑戦してほしい。私たちは一緒に考え、背中を押してあげるから…。」この七年間で、私が感じ、学んだことでもあります。

長い人生の中、「学生」と言われる時は一般的にはほんのわずかです。未来へつながる子どもたちの「今」が、笑顔あふれる日々でありますように、そして出会えた方とのご縁を大切にしながら、輝くあなたたちでありますように、と願っています。

ボランティアニュース

vol.1

親子でふれあい、楽しみながら学んだ防犯教室

関ケ原町立関ケ原小学校PTA

関ケ原小学校では、六月に家庭教育学級が中心となって親子防犯教室を開催しました。県警生活安全課から招いた講師の指導の下、親子で楽しく学ぶことができました。

訓練では、親が犯人となり、子どもを捕まえようとします。子どもは真剣な顔で逃げ、親は力一杯捕まえます。なかなか逃げられないかと思いきや、講師から教えてもらった方法を実践するとスルリと逃げられます。「こんな簡単にできるんだ。」と語り合う親子には笑顔があふれていました。

次の相手の腕をかんで逃げる、という訓練では、タオルを巻いた親の腕にガブリッと遠慮なくかみつく子どもたち。「痛い。」と言いながらも、楽しそうな笑顔が広がります。そこからは、親子ならではの互いの大きな安心感が伝わるようでした。

参加された保護者からは、「防犯教室と聞いていたのでもっと堅苦しい会かと思いましたが、本当に楽しみながら学べました。」という感想が聞かれました。親子の触れあいをテーマに企画した防犯教室でしたが、ねらい通り楽しく学べることができてよかったと感じました。これからも親子の触れあいをテーマに楽しく学べる企画を考えていきたいと思います。

親子のふれあいを深め、奉仕の心を育む親子奉仕活動

大野町立大野小学校PTA

「おはようございます」「こんにちは」学校でも、家庭でも、地域でもこんな挨拶ができ、学校、家庭、地域の連携を大切にし、子ども達が安全・安心して生活できる活動を本校PTAは行っています。また、児童は、伝統である「仲間とつくりあげる授業」「心にひびく合唱」「先がけあいさつ」「だまって掃除」に毎日取り組んでいます。「だまって掃除」では、隅々まできれいになるよう、「生懸命掃除に取り組んでいます。また、ボランティアを募って、草取りや落ち葉拾いを福祉委員会が取り組み、日頃から子ども達が学校を美しくしています。

また、夏休みの第一日曜日には、学校にて地域の方と共に、親子でラジオ体操会を行ってから、奉仕活動を実施しています。運動場の側溝掃除や草取りなど、親子で共に汗をかきながらも、学校も心も美しくなる素敵な活動を行っています。

大榑川グラウンドワークに参加！

輪之内町立輪之内中学校PTA

輪之内町の最南端に流れる大榑川は明治まで洗堰がありましたが、その後行われた締切工事により、源流を持たない川となりました。大榑川はその後、多様化した生活環境の中で、その多くの水源となっている家庭雑排水、農業排水、企業からの排水などにより汚れてしまいました。そのため、二十年ほど前から町民の手で大榑川をきれいにしようという取り組みが始まりました。

このグラウンドワークに中学生がボランティアとして参加し始めたのは、十五年ほど前からです。生徒及び保護者が参加し、地域の方々と一緒に川の中や川沿いに落ちているゴミを拾います。大榑川に流れ込む中江川の清掃も含め、春と秋の年二回開催されています。

それぞれ自分達にできることを考え意欲的に活動することで、地域の方々や保護者の方々とふれあい、充実感でいっぱいの活動となっています。

オヤジの会でお父さんの活躍を

大垣市立墨俣小学校PTA

墨俣小学校では、毎年八月の終わりに親子で学校の清掃活動を行っています。グランドの側溝も消防団の協力を得て実施しています。やはり力仕事はお父さんの仕事。もっとお父さん方が活躍してほしいと願っています。そこで今年度より、本校でも「オヤジの会」を立ち上げました。

先日、校外指導委員長さんから子どもたちに危険を警告する看板が老朽化しているため、新しくして欲しいとの依頼がありました。お金のかかる話でしたが、オヤジの会のメンバーが、消えかかった部分を塗り直してくださいました。普段は忙しく学校行事に参加できない方が多いですが、子どものためなら、地域のためならと自主的にやってくださいました。

最近になって、毎年夏に行われる〝楽しい夏の夕べinすのまた〟で、揚げ物の販売にチャレンジしてみようという相談が入りました。この記事が掲載される頃は「大成功で終わりました」と報告できるよう頑張って盛り上げ、お父さんの活躍する姿を子どもたちに見せていきたいと思います。

（PTA会長　櫻井喜久男）

私が出会った1冊の本【続18】

博士の愛した数式

小川洋子　著　新潮文庫

本巣市立席田小学校ＰＴＡ　汲田　雅司

書店の店員が選んだ一番売りたい本である本屋大賞の受賞作品。本好きである書店の店員が投票で決めるという企画の面白さに惹かれて購入しました。

物語は、若くしてベテラン家政婦として働く「私」が、数学の博士だった老人の元に派遣されてから始まります。博士は交通事故の後遺症のため一定の年齢で記憶が止まっており、その後の新しい記憶は八十分しかもたない。そんな博士に家政婦さんが悪戦苦闘していましたが、家政婦さんの十歳になる阪神タイガースファンの息子がその中に加わることで、ギクシャクした生活がかけがえのないものに変化していく様子を描いた作品です。

博士の子どもに対する優しく、落ち着いた、包み込むような接し方は、私の親としての子どもへの接し方の理想として心に深く刻み込まれました。博士の子どもに対する態度はいつも変わりません。何事にも怒らず、落ち着いて、褒めながら、子どもに無償の愛をそそぎます。

私自身は親として子どもとの関係に悪戦苦闘するときに、この物語を思い出します。私はだんだん成長する自分の子どもにどう接すればいいのか、迷ってばかりで自信もありませんでした。そんな私に、この博士の態度が大きな指針を与えてくれました。博士ももちろん人間ですから強い優しい部分ばかりではなく、苦手なこと、弱いところもたくさんあります。そんな中でも子どもに対しては、変わらず無償の愛をそそぐという態度に心を打たれました。

博士は八十分しか記憶がもたないので、いつも会う息子は初対面になってしまいます。それでも初めて見た子どもを抱き寄せ、毎回、大切に子どもに接する博士の態度は感動します。また息子も同じように博士のことを大切にします。八十分しか記憶がもたないので、それに合わせようと小学生ながらに努力します。二人のはかないやり取りに心を打たれます。

文中の表現は繊細で非常に哀しいのですが、子を持つ親として、じんわりと心が温まります。静かに味わいたい本であり、子どもへの接し方も少し優しくなれる気がします。

蟹工船

小林多喜二　著　青空文庫

関市立下有知中学校ＰＴＡ会長　松田　慎司

岐阜県ＰＴＡ連合会より原稿の依頼があり、普段あまり読書をする機会がない私ですが、原稿を提出しなければならなく、何を読もうか困りながらスマートフォンのアプリを眺めていた折、「蟹工船」という書籍が目にとまりました。「蟹工船」という本の名前は知ってはいたが、内容や著者はまったく知らず、無料でダウンロードできることもあり、人生初めて紙の本ではない電子書籍をダウンロードし読書をすることにしました。

「蟹工船」は、もう一度立ち上がったことが紹介されて本編が終わったあと付記があり、そこに、二度目のサボりが成功したことや、漁期が終わって戻ってきた船の中でストライキをやったのは博光丸だけではなかったことや、二、三の船から赤化宣伝のパンフレットが出てきたことや、組織や闘争を初めて知った労働者たちが、警察に捕まりながらも、それぞれの場所へ入り込んでいったことが紹介されていました。「蟹工船」を読み終えて、当時を生きた人々は、戦後教育で普及する人権や労働に対する意識などを前提にするものとは別の意識をもって生きていたのだなと思いました。また、それゆえに、サボタージュや、ストライキへ向かって行く様子に迫力がありました。労働というものは、机上の理論や、学者の頭の中から生まれたわけではなく、現場の熱気や、血や汗から生まれたのかもしれないと思いました。又、印象に残ったエピソードがあります。底刺し網を降ろしたり引き上げたりする作業を行う為、八隻積んでいた川崎船を海が荒れるとわかっていながら出され、うち一隻が行方不明になって三日目に戻ってきた場面です。川崎船はカムチャッカの岸に打ち上げられ、船員はロシア人家族に助けられました。言葉は通じませんが、ロシア人の家に片言の日本語をしゃべる中国人がきて、日本では金持ちの腹が膨れ、働く人が貧乏になると説き始めました。船員は漠然とこれがかの恐ろしい赤化かと思いますが、話の内容には引きつけられてしまいました。日本とロシアは特に北海道は交流が深く、船がロシアに流れ着くことも珍しくなかったそんな中でロシア語のパンフレットが持ち込まれるなどしてロシアから労働運動が伝わったこともあったのかもしれないと思いました。蟹工船で虐げられている労働者は、現代の日本の労働者と多少ならず重なる部分があるのではないかと思いました。休日出勤、サービス残業、パワーハラスメント、リストラ、日本という国は太平洋に浮かぶ巨大な蟹工船という感があります。読み終え、一番に感じたことは、劣悪な労働環境の描写が大変リアルに描かれており、当時の労働者達の置かれた環境に衝撃を受けました。

pleasure

イラスト&クイズ

永田琴乃（関市）

弓削七海（大垣市）

QUESTION -1

潜水艦の中にあるフルーツは？

出題・三宅　花（美濃加茂市）

〈答えは41ページ〉

わが家のルール 48

森家の巻

何でも言い合える家族

関市立武儀中学校PTA　森　裕美子

我が家は、主人と主人の父母、高三の長男と中三の長女、小四の次男と私の七人家族です。

結婚をする時、『どんな家庭を築きたいですか?』というよくある質問に殆どの方が『明るい（温かい）家庭…』と答えると思います。確か私もそう答えていたと思いますが、誰もが明るくて温かい家庭を築きたいと望んでいることでしょう。

血縁関係にあるとはいえ、毎日生活を共にしていかなくてはいけない家族と言う集団の中で、意見が合わなかったり、ぶつかったりすることは大なり小なりどの家庭でもあるかと思います。そんな時、家族のルールがあれば、そういったトラブルも多少防げることもあるかもしれません。

しかし、残念ながら我が家には、ルールというものはありません。

家族の幸せを願う気持ちは、誰もが同じで、親として一番に考えることは、未来を生きる子どもたちの幸せだと思います。以前、子どもたちの躾を兼ねてルールを決めたこともありましたが、それが持続されないまま、いつの日か消滅してしまいました。

私たちは夫婦共働きで帰りも遅いため、子どもたちと触れ合う時間は限られています。子どもが小さい頃は、寝顔にしか会えない…ということもありました。

小さい頃は、ぎゅっと抱きしめたり、肌と肌との触れ合いを大切にし、子どもが大きくなった今は、できる限り子どもと話す時間を持つことを大切にしています。…と言っても、今は思春期でなかなか口を開いてくれないこともありますが、そんな時は子どもから話してくれるのを待ったり、話しやすい環境を作ったりしながら、そっと見守るようにしています。

そんな現状で、私がもし今から家族のルールを作るとしたら『良いことも、悪いことも、何でも話す』というルールを考えます。家庭の中だけでは分からないことや子どもの心の中を知ることもでき、それに対して親としての助言もできるからです。隠しごともなく、正直に何でも言い合える…そんな家族になりたいと、私は願っています。特に家族のルールとして決めなくても、この思いは必ず子どもたちに伝わると信じています。

わが家のルール 49

吉野家の巻

自分で考える

不破郡垂井町立宮代小学校PTA会長　吉野　昌樹

ルール①　一人で起きる

子どもにとって一人で起きるという事は、たいへん難しい事だと思います。親が起こしてくれるものとインプットされていた我が家の三姉妹ですが、自立への第一歩だと考え取り組んでいます。何時に起きると余裕を持って支度が出来るのか、それなら何時に寝たら一人で起きられるのかなど、自分で決める事によって責任を持った行動に繋がればと思っています。

ルール②　お金は考えて使う

長女は六年生です。まだおこずかいは与えておりません。おこずかいを持つようになった時のため、お金の大切さやお金には限りがあるという事を言っています。欲しい物があった場合、まずは自分の欲望を抑え一旦我慢させます。

それから買う物の優先順位を考えさせます。そうこうするうちに、どうしても欲しい物ではなかったと気が付くようです。時には失敗もしますが経験だと見守っています。

最後にもう一つ「見つけたアイスは自分の物」。これも我が家の大事なルールです。

子の思い

ポカポカことば

大垣市立中川小学校
二年　竹中　晴き

休みじかん、そとであそんでいるとき、おもいっきりころんでしまいました。すると、近くにいた友だちが、「大じょうぶ?立ち上がれる?」と言って、手をかしてくれました。

ぼくは、「ありがとう。」と言って、立ち上がりました。けがをしたひざはいたかったけど、うれしい気もちになって、こころがポカポカしました。

体いくのじかんには、リレーのときに、友だちが、「がんばれー。」とおうえんしてくれたので、こころがポカポカして、「よしっ!がんばるぞ!!」とゆう気がわいて、がんばってはしることができました。だから、ぼくも友だちを「がんばれー。」と大きなこえでおうえんしました。

ほかにも、こころがポカポカする『まほうのことば』は、いっぱいあります。

ぼくは、ポカポカことばを言ってもらうと、とてもうれしいので、みんなにもいっぱい言っていこうと思います。

歴史は大好き

各務原市立蘇原第二小学校
六年　半田　希空

私は、日本の歴史が大好きです。三年生の時からたくさんの本を読んだり、みたりしています。

私が歴史に興味をもった理由は三年生の時です。学校の図書室で借りる本を迷っていました。どうしてもなかったので歴史のコーナーの勝海舟と豊臣秀吉を借り、読むととてもおもしろかったからです。

最初はよく分からない文章や、言葉ばかりだったけど、読むうちに「ああ、そういう意味かー。」とか、「他の人のも読みたいなー。」と思うようになり、どんどん借りました。

ところがある問題が起きました。読んでいるうちに好きな時代がでてきて、その時代の本ばかり読み、他の一部の時代の事を忘れてしまいました。だから、忘れてしまった時代をもう一度覚え直して何とか忘れを取りもどすことができました。これからは、好きな時代だけでなく全部の時代で、かたよらないようにしたいです。

今は、お城の関係や、人物の名前を覚えることが大好きです。でも日本だけでなく、世界の歴史を学んで、将来の役に立てるようにこれからも学びたいです。

地域の一員として～共に創る～

郡上市立白鳥中学校
三年　田中　あみ

あたたかい拍手とたくさんの笑顔の中、郡上市合併記念式典は静かに幕を閉じました。

私がこの式典の記念合唱に参加しようと思った理由は、「郡上市の合併十周年を祝いたい」という気持ちと、「この式典に参加することで、地域の方々と協力し、一つのものを創り上げたい」と考えたからです。

練習にはさまざまな年代の方が参加されていました。私は最初、練習に行くのが心配でした。周りは知らない方ばかりで、「怖いなぁ」「不安だなぁ」と感じていたからです。しかし、そんな心配は全く必要ありませんでした。それは、私の周りの方が「一緒に頑張ろっ!よろしくね。」と声をかけてくださったからです。この一言で私はとても安心することができたし、郡上市の、ふるさとのみなさんのあたたかい心を知ることができたのです。

このようなあたたかさを感じたのは、これだけではありません。練習中、体調の悪くなった中学生を気遣ってくださる姿からは、優しい思いやりを感じました。また、本番でも緊張を和らげてくれるような声をかけてくださったおかげで、すばらしい合唱ができたのだと思いました。歌い終わった後の、会場中にあふれる割れんばかりの拍手とたくさんの笑顔がとても嬉しかったです。

この式典を通して、私はふるさとのみなさんのあたたかさを感じると共に、白鳥中学校の生徒会スローガンである「共創」という言葉を思い浮かべていました。真剣な表情で練習に励むみなさんの心には、年齢や性別などに関係なく、「合唱を成功させたい!」「自分たちの手で、よいものを創り上げたい!」という歌う仲間としての共通の願いがあったのだと強く感じたのです。

私はこの経験を学校にも広めていきたいと思っています。そして、このふるさと郡上市が今よりもさらに発展していくように、自分なりにできることを考え、自分から進んで取り組んでいきたいと思います。

親の願い

目標を持つこと

恵那市立岩邑中学校PTA
会長　福平　栄久

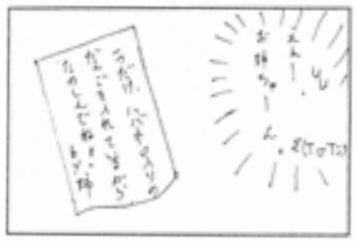
私は、高校生の娘、中学生の息子、小学生の娘をもつ父親です。私の住んでいる岩村町は人口が五千三百人程度のまわりを山に囲まれたのどかな田舎町です。一学年の子どもの数は百人を超える時代もありましたが、今では五十人前後となっています。

さて、私は普段仕事中心の生活をしていますので、専ら子育ての主役は母親で私は脇役のような形ですので、子育てについてあまり偉そうなことを言える立場ではありません。

我が家の三人の子どもは、それぞれが全く違った個性を持っており、兄弟ってもう少し似たところがたくさんあってもいいんじゃないかと不思議に思っています。勉強を一生懸命頑張る子もいれば、勉強嫌いもいます。スポーツを一生懸命頑張る子もいれば、スポーツ嫌いもいます。父親としては、兄弟のそれぞれの良いところがほかの兄弟に影響を与えてくれたらいいなと思ったり、それぞれの個

大垣桜高校 まんが研究部

お月見♪



逆さ言葉

たれついたたいつれた
（タレ付いた鯛釣れた）

出題・今西佑羽（羽島市）

性なんだから自分の良いところだけ伸ばしていければいいんじゃないかと思ったりしながら子どもの成長を見守っています。

私は子どもたちに「自分の目標を持って物事に取り組みなさい」と言います。これは、私がドラッガーという有名なオーストリア人の経営学者の本を読んでから、自分の目標を立てて、それを自分で管理するということが大事なことであると感じたからです。よくテレビでオリンピック選手がメダルを獲得した時に目標を達成できて良かった。自分の練習方法を信じてやってきて良かったというコメントを耳にすることがあります。

自分の目標管理は、その目標に対してどのような手段で実行に移し、実行した結果が目標に値する成果が得られたかどうかを検証し、目標達成できなければもう一度手段を変えて実行していくことを繰り返すことによって最終的に目標達成につながると思います。

自立し自分で考え、中学生には大人への自覚をさせ、生きる知恵と力をつけさせたいと、私としては思うばかりです。

生きる知恵と力をつけたら外に出ていろいろ挑戦し、自分の目標、生き方を見つけ、人生経験を深めてハッピーになってほしい。

子どもたちよ、親の介護は、気にしなくていいよ!

私は子どもたちが自分の将来の自分をどうしたいのかということを真剣に考え、その上で自分の目標を立てて、今の自分がやるべきことを自分自身でしっかり決めて取り組んで欲しいと思っています。自分が立てた目標を達成するための手段がうまくいかず挫折することもあると思いますが、こうした困難を乗り越え自分の目標が達成できるたくましい人間になって欲しいと願っています。

親より先に死ぬな!そして世界へ羽ばたいてくれ!

加茂郡白川町立蘇原小学校PTA
会長　藤井　正人

今年の四月に、韓国で旅客船の沈没により、修学旅行中の高校生が、二百名近く犠牲になると言う痛ましい事故がありました。テレビニュース・新聞等には、嘆き悲しむ親、救助が進まないことに激しく抗議する親が報道されていました。連日の報道に、人生これからの高校生が巻き込まれ、無念極まりなく亡くなり、私もやるせない気分でした。人の命に、子どもだから重い、老齢だから軽い、の扱いはあってはいけないですが、今回の犠牲は非常に重いものでした。

もし家の子が…。なんて恐ろしくて想像もできませんでした。

また、日本のテレビニュース・新聞で、親の育児放棄、虐待による子どもの死、学校でのいじめによる自殺、社会人となり職場でのいじめによる自殺や、過労死を聞くと、「人生これからなのに、誰かが、普段とは違う事に気付かなかったのか?サポートしてあげてなかったのか?何とかしてやれなかったのか!豊かな時代なのに、何で命の扱いが粗末なのか。」と思ってしまいます。

私の周りでは、事件になるような事例は、聞いたことはありませんが、何事も可能性はゼロではありません。私たちが命の危険を未然に防ぎ、子どもたち、親たちの人生をハッピーなものにしなければいけません。

では、その命を大切にし、ハッピーにする方法とは?

私の技量では、自分の子どもと遊ぶ、話す、勉強を見ること。地域の子どもや親たちには、あいさつと一声、二声の話をすること。職場では子どもを持つメンバーには、子どもの話を聞いて、気持ちの持ち方が弱く悪い方へ行ってないか、気を配ることしかできません。(役柄上、色々な講話・講演会へ行っていますが、その場ではメモし、なるほどと知恵・知識がついたと思ってしまいますが、現実は忘れてしまうことがあって、実践する勇気もなく、トホホな状態です。)

自分と愛する人と繋いだ命が、自分たちが育て上げる前に失ってしまう…。

こんな事がない様に、子どもの幼年期には寄り添い、小学生には

教育の窓

学年を超えてつながる

大野町立中小学校
校長　杉山　多美子

中小学校では、「きもちのよい中小」を合い言葉に、一五七人の子どもたちが元気に学校生活を送っています。

「き」きれいな環境を目指し「も」もくもく掃除や環境活動に全校で取り組み、岐阜県学校環境衛生活動の特選校をいただきました。毎朝、分団登校してきた子どもたちは班長さんを中心に元気にあいさつし、「ち」チャレンジあいさつに取り組んでいます。「の」ノーチャイムの学校生活では、高学年が遊びに夢中になっている低学年の子たちに呼びかけてくれている姿をよく見かけます。「い」いっぱい読書では、読み聞かせボランティアの方々を参考に、図書委員の子が低学年の子に本を読んでくれます。

そして、中小学校が、今、一番燃えているのが、「よ」よい仲間づくりの一つとして行っている「全校ドッジボール大会」です。

毎週火曜日のロング昼休みに、縦割り班十チームが総当たりで、優勝トロフィー目指して戦っています。先生も審判として参加しています。一年生から六年生まで力の差が大きいので、高学年同士は利き手、高学年が低学年を狙うときは両手、低学年は二回当たったらアウトなど、どの学年も楽しめるように六年生がルールを工夫してくれました。一生懸命逃げていても低学年の子はあたってしまって、思わず涙が出てしまいます。でも、みんなで声をかけあったり、チームで作戦を考えたりする姿があり、全校の子がこの時間を楽しみにしています。

その他にも、低学年集会や高学年集会で、三年生や六年生を中心

大垣桜高校 まんが研究部

ヒーロー…?

逆さ言葉

わたしやもりもやしたわ
(私ヤモリ燃やしたわ)

出題・安田那緒(多治見市)

にゲームなどを企画し、みんなで楽しんでいます。

いろいろな学年の子どもたちで一つの活動に取り組むことは、同学年だけでは学べないことをたくさん教えてくれていることを実感しています。

勇気ある立候補

山県市立伊自良中学校
教諭　伊藤　綾花

「今日は暑い日だった。体育で大縄をした。気持ちいい汗をかいた。」「あと一週間で期末テスト。授業にも力が入ります。いつも入れてますけど。」

「今日は、一日中眠たかったです。先生、眠気をなくす方法を教えてください。」

様々な書き出しで始まる、学習計画ノート。中学生が毎日の出来事や思いを書き綴る、ほんの五行程度の生活日記。身の回りの様々なことに敏感な中学生たちは、心の中では大人が思いつかないようなことを考えたり、悩んだりしているようだ。

「今日は、組織決めをしました。」そんな書き出しで始まったのは、普段はおとなしいA子。「すぐに全部決まると思ったけど、立候補が出ない委員会があり、なかなか進みませんでした。」確かにその日の学活は、三つの委員会が決まっただけ。立候補のいないところは、また翌日決めることになった。A子のノートは、「班長に立候補したかったけど、あまりにも人が多かったため、立候補しませんでした。後で自分が後悔しない選択をしたいです。」と締めくくられていた。

次の日の学活の時間。やはり、いくら待っても立候補はない。もう役職が決まった生徒たちは、少しいらだち始めていた。「落ちるのが怖くて立候補できないまま、やりたい委員会がだんだん決まっていってしまいます。」と書いてきたのはA子。昼休みに学習室にいた彼女に話しかけてみた。授業のことや、部活のことなど、たわいもない話をした。「ところで、まだ決まっていない委員会って、どうなると思う?」と聞いた。「誰かがやらなきゃいけないと思う。前に立つのって、勇気がいるし。でも、誰かがやらなきゃ。」と言って、A子は目に涙を浮かべた。「わたし、立候補します。」と、小さな声でつぶやいた。帰りの会で、立候補演説をすることになった。最後まで堂々と話した。全員の拍手により、認められた。

もうすぐ一学期が終わる。A子は委員会の中で活躍しているということを、多くの先生方から耳にする。日々の当番活動はもちろん、キャンペーンの振り返り用紙の作成、休んでいる子への気配り、クラスへの呼びかけ。真剣に、一生懸命取り組んでいる。はじめは心からやりたかった仕事ではないのに。他にやってみたい係があったのに。でも、A子を奮い立たせたのは、「クラスのために自分がやらなければ。」という責任感と、自己犠牲の心。それと彼女が生まれもっている優しさだと感じた。

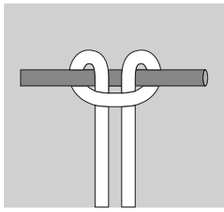
やりたいことを思う存分できれば本当にベスト。しかし、ほんのちょっと目線を周りに向けて、みんなのために動けるような心配りができるA子のような人の存在が、世の中を明るくしているのだと思う。

親子で はてな 9月号のクイズ

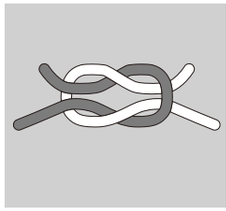
Q1

ボーイスカウトやキャンプで習うロープの結び方について、それぞれのイラストは何結びを表しているでしょうか?
次のうちから選んでね！

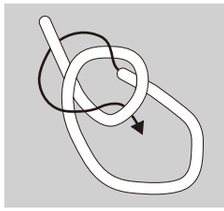
A：物にロープを結ぶ



B：2本のロープを結ぶ



C：ロープに輪を作る



本結び・もやい結び・ひばり結び

9月1日は防災の日。
覚えておくと、キャンプのとき以外にも、災害のときなどに役に立つかも！

A.＿＿＿＿　B.＿＿＿＿　C.＿＿＿＿

Q2

漢字で穴埋めをしよう!
下の①、②に漢字を入れると、4つの単語ができます。
①、②にあてはまる漢字を答えてね！

自
親 1 数
別

身
本 2 格
育

ヒント!
これからの学校の休日に関係する漢字だよ！

7月号クイズ答え

Q1 ③南十字星

Q2 金魚

7月号のクイズ当選者

伊藤　聖菜（岐阜市）　川合　未紗（関　市）
木村　龍一（各務原市）　小沼　成子（郡上市）
中森由美子（瑞穂市）　鈴木　麻友（郡上市）
廣瀬　茉莉（本巣市）　長瀬　良磨（美濃加茂市）
伊藤　慎介（山県市）　安田　那緒（多治見市）
金谷　桃奈（大垣市）　間野　史奈（多治見市）
中島　雅乃（関　市）　伴　咲菜（多治見市）
足立　芽生（関　市）

応募方法

応募者は、はがきで、9月末までに下記の宛先へお送り下さい。
（1人1枚・当日消印有効）
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先　〒500−8824
岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入して下さい。

- ●9月号クイズの答え
- ●郵便番号・住所
  学校・学年・氏名
  保護者名
- ●『わが子のあゆみ』への感想・意見
- ●「なぞなぞ」の問題と答え
- ●逆さ言葉

★お試しクッキング★

とりトマ丼

「とりトマ丼」は、地元食材を使った中津川の名物料理として開発された料理です。中津川どりとトマトを使った地産地消メニューとして広まっています。中津川市では給食にも取り入れられており、子どもたちの人気メニューのひとつです。

七～十月に出荷される「夏秋トマト」は、主に飛騨・東濃・中濃地域で栽培されています。トマトには、グルタミン酸という「うまみ成分」が含まれます。トマトは、サラダだけでなく、炒め物やスープに入れても「うま味」が出て、美味しくなりますからおすすめです。グルタミン酸は、果肉よりも種のまわりのゼリー部分に多く含まれているので、料理に使うときはまるごと使いましょう。

唐揚げは米粉を使って揚げると、さらにカリッと仕上がります。時間がないときは、「トマトあん」だけ作り、市販の唐揚げや、チキンカツを代わりに使うと、もっとお手軽にできます♪

材料 4人分

- 鶏もも肉(唐揚げ用) …… 240g(30g×8個)
- 塩こしょう …… 少々
- かたくり粉 …… 適量
- (揚げ油)
- トマト …… 中1個
- たまねぎ …… 中1／2個
- 干し椎茸 …… 2枚
- 卵 …… 1個
- ケチャップ……大さじ2と1／2
- 和風だし …… 8g
- おろしにんにく…小さじ1／2
- おろししょうが…小さじ1／2
- かたくり粉 ……小さじ1
- 豆板醤…少々(お好みで量を調節)
- レタス(盛りつけ用)
- ご飯 …… 4杯分

作り方

※干し椎茸は水で戻しておく。

1. 鶏肉に塩・こしょうで下味をつけ、かたくり粉をまぶして油でカリッと揚げる。
2. トマトは二センチ角に切り、たまねぎと干し椎茸は薄切りに切る。
3. フライパンに油をしき、にんにく、しょうが、豆板醤の香が油についたら、たまねぎを入れて炒める。
4. 干し椎茸、トマトを入れて軽く炒め、干し椎茸の戻し汁と水を合わせて百cc入れて混ぜる。
5. 和風だし、ケチャップで味付けし、水溶き片栗粉でとろみをつける。
6. 溶いた卵をながし入れて、火が通ったらOK。
7. ご飯に、レタス、鶏の唐揚げをのせ、トマトあんをかけて完成。

●栄養価(1人分)

エネルギー	439kcal
たんぱく質	18.3g
脂質	7.1g
カルシウム	38mg
鉄	1.7mg
亜鉛	2.2mg
ビタミンA	57μgRE
ビタミンB1	0.43mg
ビタミンB2	0.24mg
ビタミンC	23mg
食物繊維	3.2g
塩分相当量	0.8g

■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな?」の回答とともにお送り下さい。

宛先はいずれも 〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。 採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度始め(4～5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います(1冊200円、5冊1000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

■7月号を読んで

「必要のないスマホやケータイは持たない」ということは、危険を防ぐ第一歩だと考えます。基本として、小中学生のうちは必要ないと思います。当然、我が家も子どもに持たせていません。 足立さん

子どもがまだ小さいとは言え、親が使用しているパソコンやスマートフォンにとても興味をもち、自分専用のものがほしいと日々思っているようです。まだ先のこととは思っても、時は一刻一刻と近づき、今回の「親と子のあんしんネット」を改めて読ませていただきました。親自身もその使い方を反省したいと思いました。ありがとうございます。「あきらめてはいけないと教えてくれたおやじ役員」。まだまだ心温かい人々がいることをうれしく思い、読ませていただきました。 中森さん

少しいなかの方が、いろんなイベントがあるからうらやましいです。私が行っている小学校では、夏祭りをしている時は集まるけれど、他のイベントはどうして集まらないんだろう。私は家族で参加しています。 伊藤さん

先日、娘の学校でも情報モラルの学習会があり、子どもが安全にインターネットを使うためにはどうすべきかを教えていただきました。娘はまだ2年だし、パソコンは使わせていないからいいわ、ぐらいの気持ちで参加したのですが、いやいや、そんなことはありません。掲載されていたように、パソコンだけでなく端末機、音楽プレイヤー等、身近なものから情報世界に繋がってしまうこと、無防備に使用して個人情報が盗られてしまうことを知りました。この先、子どもはこういう道具を上手に使いこなして生きていくことになるので、親として子どもを守るために使わせないのではなく、一緒に使い、使用するルール、自分を守る方法を教えることの大切さを感じました。時代は変わり、自分の子どもの頃とは違う楽しさもあるが、併せて危険もあると感じました。 鈴木さん

県内の学校の生徒さんや親さん、先生の頑張っている、努力している姿が見られて、ほのぼのとした気持ちになります。子どもが大きくなり、成長していく姿を見ることは、とても嬉しいのですが、考え方など色々と親と意見が合わなかったりで、私自身も子育てという面では、子どもたちと一緒に成長していかなければと思っています。考えさせられますね。 川合さん

親と子どもの「あんしんネット」を読んで、まだ息子には持たせていませんが、親が機能について行けず、子どもを守りきれない現実を考えると、「怖い」の一言です。ルールを決めて与えることも大切です。 長瀬さん

私の先生のコーナーは、いつも楽しみに読んでいます。先生の子どもの頃の様子や、どうして先生になったとか、文を読んでいると解ってきて親しみやすくなるからです。 中島さん

今回、きらり!キッズ!が、とても心に残りました。岐阜県と言っても広いなあと、つくづく思いました。登山、釣り、雪遊びに歌舞伎。釣りは出来ても濃尾平野では、ほぼ出来ないことばかりです。小学校でお泊まり会があれば、小学校間で話し合って交流して、体験してほしいと思いました。言葉も食材も同じ県内でも色々あることを知って欲しいからです。 Mさん

■編集後記

定期大会の講演を抜粋してお届けしました。自立とは、子どもが自分で立てるように力をつけてやること。保護者から親へ。マネージャー、スポンサー、コーチなど、興味深いお話が次々に出てまいりました。後半も興味深い内容です。ご期待下さい。

なぞなぞの答え

①スイカ

■11月号のお知らせ(予定)

特集・子どもの心のコーチング(後編)／表紙＝美濃中／学校のたからもの＝鵜小・福寿小・寺尾小・郡上東中／私の宝物＝倉知小／お弁当の日＝武並小／家庭教育学級応援団＝県教育委員会社会教育文化課／シリーズ「療育」＝長良特別支援学校／保健室ノート＝下原小／私の先生＝穂積中／半生記＝白川北小／ボランティアニュース＝三輪北小・島小・柳津小・三里小／一冊の本＝広幡小・岐南中／わが家のルール＝陶小・金山中／ふるさとの伝承＝下多度小／我らが部活＝城南中／私たちのPTA＝瑞陵中／きらり!キッズ!＝伊自良南小／作文＝八百津小・東江小・竹鼻中・大矢田小・山之村小中・蘇原中・福岡小／お試しクッキング＝岐阜県学校栄養士会

わが子のあゆみ

平成26年9月1日 発行
初秋号 第66巻2号
通巻434号

頒価 200円(年間 1,000円)
＊お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集／岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
発行／岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
電話／058-262-3257 FAX／058-262-3259
ホームページ／http://www.g-pta.com
Eメール／info@g-pta.com
印刷／サンメッセ株式会社

大垣市立西小学校 ふるさとの伝承

創立百四十三年の長い歴史と伝統を持つ本校では、「梨」「俳句」「舟下り」の三つの活動をふるさと学習の中に位置付けて総合的な学習の時間などに進めています。他には「水」、「国際理解」や「福祉」をテーマにしていますが、この三つの活動は西小学校で、ずっと継続してきたものです。他の地域にはないこの活動は、本校の自慢であり、地域の方々のご協力なくしては成り立たない活動となっています。

地域の梨づくりを学ぶ

「ふるさとを学ぶ、ふるさとから学ぶ」をテーマに各学年でふるさと学習を進めています。三年生は、この「チャレンジ イン ふるさと」で、地元の産業について学びます。町探検をしたり、地域の方（梨栽培）の話を聞いたりして自分たちのふるさとに愛着を持てるような活動をします。また、地域の湧き水を利用した麺作りを通して、ふるさとの産業に親しむ活動を行っています。一学期には、花粉付けや摘果、果実への袋付けの三回の梨畑の見学をしました。

俳句づくりに取り組む

秋の空芭蕉気分で舟下り　未奈

「書く力」をより高め、新学習指導要領に位置づけられている「言語表現力」を培うことをねらいとして、全校で俳句づくりの取り組みを進めています。行事や感動体験後に俳句づくりを行い、つくった俳句を各種俳句大会に応募するよう呼びかけています。その結果、毎月実施される大垣十六万市民投句では特選、秀逸、入選の各賞に多くの児童が入選しています。平成二十六年度六月度の投句は全部で千百七十句あり、入賞は六十六句でしたが、そのうち西小児童の作品が五十八句選ばれました。（俳句づくりを通してふるさと大垣を愛する心が育ってきています。）

舟下りを楽しむ

大垣は、地下水が豊富でおいしい水に恵まれていたことから、「水の都、水都」と呼ばれ、現在も自噴井など豊かな水の文化が残されています。市内の中心部を流れる水門川を舟で下ることや、舟が着く場所に立地する奥の細道むすびの地記念館を見学することによって、新たな視点でふるさとの自然・文化・産業・歴史をみつめふるさと学習を進めています。水利としての川や舟の役わりを体感し、ふるさとの産業や先人のくらしの理解を深めるとともに、芭蕉と大垣の結びつきを知り、俳句を生活の中へ取り入れ、さらに親しんでいく契機としています。この水門川での舟下りを、木々が色づき始める秋の時期に合わせ、大垣市水産組合、ＰＴＡの協力を得て五年生を対象に開催し、今年度二十三回目を迎えます。

今後も、これらの三つの活動を通して、ふるさとを知り、ふるさとから学び、ふるさとを誇りに思える子どもたちを育てていきたいと考えています。

▲梨の袋付け作業の見学と体験６月

▲梨の花粉付け作業の見学と体験４月

▲梨の摘果作業見学５月

▲水門川舟下り

▲地域オリエンテーリングで俳句づくり５年生（遠足）

▲舟下りの後に俳句づくり

◀校内の俳句掲示板２年生

ふるさとを学ぶ、ふるさとから学ぶ

きらり！キッズ！

下呂市立中原小学校

笑顔と活気あふれる学校

下呂市立中原小学校は、飛騨木曽川国定公園に指定されています「中山七里」沿いに位置し、川や山に囲まれた自然豊かな学校です。全校児童は三十二名です。「笑顔と活気あふれる学校」をめざして、一～六年生が助け合いながら様々な活動に取り組んでいます。

「全校で取り組む中原茶づくり」

下呂市の南部は、古くからお茶の栽培が盛んな地域です。本校では、ふるさと学習の一環として、毎年五月に地域の方々から指導を受けながら、茶摘み、茶煎り、茶揉み、乾燥の全過程を体験します。

茶摘みでは、なかよし班で高学年と低学年がペアを作り、「一芯三葉」といって芽が一つとその下の三枚目の葉っぱまで摘むとおいしい中原茶ができるんだよ。」と見本を見せながら教え、一緒に摘み取っていました。今年度も祖父母の方や地域のボランティアの方十二名も参加してくださり、約三十二kgの茶葉を摘み取ることができました。この活動が、長い間継続できるのは、いろいろな条件がそろっているからだと感じています。地域のボランティアの方に、お手伝いをお願いできる地域に支えられ、全校で活動し、それぞれの学年がやらなければいけない仕事が引き継がれています。今後も大切にしていきたい行事です。できあがった中原茶は、お手伝いをしてくださった地域の方やお世話になっている方、学校を訪問してくださった方々にお配りしています。

「七里かがやき学習」

七里かがやき学習では、三～六年生が地域の歴史や文化、福祉、中原の自然、中原太鼓などの学習を行っています。

五・六年生は地域福祉の取り組みの一環として、今年度は、独居老人宅への訪問活動を行いました。民生委員の方や福祉協議会の方にご協力をいただきながら、訪問先のお年寄りと一緒におはじきやカルタなどをやって遊びました。折り紙のプレゼントを差し上げた時に、涙を流して喜んでくださったお年寄りの姿を見て、「これからも、遊びに来させてください。」と、感想を述べた児童もいました。

三・四年生は、地域の森の案内人講師の方を招いて、中原の自然と岐阜大学位山演習林の原生林区から学んできた自然と比較しながら、中原の自然環境を見つめ直す学習を取り入れています。また、中原太鼓の練習にも取り組んでいます。

一・二年生は、一年かけて中原校区の様々な場所を探検し、中原の秘密をさぐります。

学校の近くに借りてある茶畑で、「一芯三葉」を合い言葉に茶摘みを行いました。

茶煎りの様子です。高学年が中心となってお茶を丁寧に煎っていきます。

お茶の乾燥。3,4年生が中心となって、お茶の木くずなどを取り除きます。

1,2年生は、6年生に手ほどきを受けながら茶揉みを行います。

一緒に過ごさせて
いただいたお礼の手紙。

福祉活動の一環である「独居老人宅訪問」。
カルタとりを一緒にやってもらったり、中原地区にまつわる昔話をしてもらったりと充実した時間を過ごしました。

3,4年生が宿泊研修に出かけ、「岐阜大学位山演習林」で原生林などを見学しながら、森の隊長から草笛講座を受けたりクロモジの小枝の匂いをかいだりしていました。

1,2年生は、中原校区を1年かけて探検します。
この池は、中原地区に伝わる民話に出てくる「孝子ヶ池」です。親孝行な子どもになれるように、探検からは外せない場所です。

中原小学校に伝統的に続いている「中原太鼓」を運動会で披露します。

夢中! 熱中! 我らが部活

熱く燃え上がる『坂本中魂』

中津川市立坂本中学校

坂本中学校は、中津川市の西部に位置する全校生徒四百三十四名の学校です。校区は中山道の旧街道が残る中山間地の農業を中心とした地域でしたが、近年は工業団地に隣接する住宅地として発展しています。また、リニアモーターカーの駅が本校の近隣にできることが予定されています。わずかではありますが生徒数も増加の傾向にあります。

学校の教育目標「自主 協力 創造」のもと、部活動においても、生徒は夢に向かって協力し合い自らを高めています。温かく見守り支えてくださる保護者や地域の期待に応えようと、どの部活動も毎日の練習を大切にして活動しています。

※部活動にかける私の夢と題して、各部の部長に以下の内容について書いてもらいました。(七月四日)
①どんな夢を持って毎日取り組んできたか。
②後輩には、どんなことを大切にして、新たな夢に挑戦してほしいか。

女子バスケットボール部

①少しでも点を取って喜び合えるチームにしたいという夢を持って、毎日練習をしてきました。このメンバーでの練習が残り少ないなか、みんなが一つの目標に向かって、精一杯プレーしてきました。〝One for all,all for one〟を忘れずにプレーしようと、練習や話し合いを積み重ね、初めて夢を持つことができました。
②仲間や支えてくださった方々がたくさんいたから練習ができるということを忘れないで欲しいです。コートに立っている5人がチームじゃなく、ベンチで応援する全員で戦っていると考えて、みんなでパスをつなぎ今から心を一つにしていってほしいです。そうすればおのずと結果はついてくると思います。

男子バスケットボール部

①県大会に出場し、全員で勝利すること。「取られたら取り返す」を意識して、バスケットをすること。全員の気持ちを一つにして戦い抜くこと。
②1年生は後輩を抜いてスタメンを取るという気持ちで、2年生は俺たちのプレーを見て学べと言えるように日々努力すること。努力を惜しむな。

陸上部

①箱根駅伝出場という夢を持ち、毎日練習日誌を書くことや1日にあいさつを45人以上することに取り組んでいます。
②僕は箱根駅伝出場という大きな夢ができてから、練習の質はもちろん日常生活の態度も変わることができたので、夢を持つならぜひわくわくする大きな夢を持ってほしい。怪我をしたらそこであきらめず、怪我と戦って打ち勝ってほしい。「怪我こそチャンス」

剣道部

①県大会で優勝することを目標にして、練習を毎日続けること、1回1回の練習に集中することを大切に取り組んできました。
②後輩には試合に勝つことと同じくらいに礼儀と練習を大切にしてほしいです。試合に勝つためには練習が大切です。どんなときも礼儀は絶対に必要です。この二つを大切にして、自分の夢に向かって歩んでほしいです。

ソフトボール部

①ソフト部全員で決めた「市内大会優勝、東濃大会で一勝する」という目標を達成するために、「絶対にヒットを打つ」という目標を立て、今まで練習してきました。学校だけでなく、家でも素振りを100回したり、筋トレを1分間ずつやったりと、努力してきました。中体連では、ヒットが打てるといいです。
②まずは礼儀を大切にしてほしいです。先輩や先生、親さんにすぐにあいさつをしたり、もし試合をやったときには他チームの方にしっかりあいさつしたりすれば、第一印象はすごくよくなり強いチームに見られるからです。他にも、先輩、先生、親さんに言われたことは素直に受け止め、それを次のことに生かすということも大切にしてほしいです。

サッカー部

①サッカー部は、先輩が果たせなかった県大会出場を目標として頑張ってきました。5月に行われた春季大会では、ついに県大会出場を果たすことができました。次は市内大会優勝、東濃大会優勝、県大会ベスト4を新たな目標とし、その目標に向かってチーム全員で一丸となって頑張っていき、サッカー部の新しい歴史を築いていきたいです。
②今の自分たちがあるのは、周りにいる全ての人のおかげだと思っています。感謝の気持ちを持つことを大切にしてきました。感謝の気持ちを持つことを忘れずに、チームメイト、親、先生との関係を大切にして、団結力を発揮することを期待します。

野球部

①地元で甲子園に行くことを目標にやってきました。そして、最終的にはプロ野球選手になってプレーすることが夢です。その夢に向けて、毎日部活動を大切にしたり、一試合一試合、一球一球すべて集中して取り組んだりしています。
②後輩には、日常生活から大切にして、たくさんの人に感謝できるようになってほしいです。そして、夢は高く持ち、その夢を成功させる努力をしてほしいです。

女子卓球部

①私は第一に、仲たがいしない、気持ちよくやり切る部活動にしたいと思い取り組んできました。そして、部全体の目標でもある「東濃大会出場」を目指し、日々練習をしてきました。後者はまだまだ力不足で自信はありませんが、前者は守れたと思います。
②後輩にはやっぱり、けんかのない部にしてほしいと思います。卓球だって一人ではできないものなので、仲間を大切にしてほしいです。また、私たち3年生以上の実力を持っている後輩がいるので、ぜひ勝ち進んでもらいたいです。

男子バレー部

①4月始まってからすぐの部会で、目標を「日本一」とかかげ練習してきました。日本一になるにはかなり難しいけど、それでも夢を大きく持ってやってきました。
②後輩にも、つねに夢は大きく持ってほしい。すごく大きい夢でも、その夢に向かって努力することをあきらめず、目先の目標より一生かけてもできないような夢を追いかけてほしい。

男子卓球部

①「部員全員から認められる部長」を目指して取り組んできました。その結果、少しは認められたと思っています。
②「お互いに助け合い、協力し合って、仲間の気持ちを考えて全てのことに取り組む」ということを大切にして、夢に向かっていってほしい。

女子バレー部

①「市内大会、東濃大会優勝、県大会出場」をするため、毎日ある部活動では基礎的なことを中心に練習しました。クラブなどでは、チーム力向上のため、練習の時に明るく声を出して、決めたらみんなで喜び盛り上げることをがんばりました。
②ちゃんとあいさつができて、礼儀正しいバレー部を継続していってほしい。そして、自分たちの目標を立て、その目標に向かって、みんなで協力して頑張ってもらいたい。中津カップ3連覇!頑張れ。

男子テニス部

①テニス部男子は、昨年先輩が果たすことができなかった団体での東濃大会出場が目標です。出場するために、個人技だけでなく、ボールをつなげるなど、チーム力にこだわってやってきました。常に目標達成を頭において、試合の結果を少しでも良くしたいです。
②大切にしてほしいことは、新しい部長になったとき、部長をテニス部全員で支え合って、一人一人が自分の役割をはたせるようになってほしいです。そうすれば、結果がしっかりついてくると思います。

文化部

①部員全員が目標を持って取り組んでいくことができるようにしてきました。人に頼らず、自分で行動してきました。反省を生かして、次の活動に役立てました。
②気を抜かずに、部活動に取り組んでほしい。「今できることを精一杯」を今後も続けて欲しい。

女子テニス部

①テニス部女子は、市内大会に優勝して、優勝旗をみんなでかかげるという夢を持ち、何事にも「全員で」取り組んできました。
②後輩には、常に支えてくれた人への「感謝」の気持ちを持って、新たに夢に挑戦してもらいたいです。

私たちのPTA

郡上市立小川小学校ＰＴＡ

平成26年度ＰＴＡスローガン

「団結」

花・スケート・一輪車・歌声が自慢の学校

郡上市明宝の小川地区は、戸数約七十戸、人口約二百人で、山や川など豊かな自然環境に恵まれ、四季を通じて自然に親しむことができます。地域の皆様は「私たちの学校」という意識が強く、登下校時に子どもに声をかけたり、行事に積極的に参加したりしてくださるなど、学校に対して理解があり大変協力的です。

花壇審査で発表する子どもたち

ＰＴＡスローガンは「団結」

本校は、一・三年、五・六年の二学級で、七家庭から九人の子どもが通う極小規模校です。ＰＴＡスローガンは「団結」。四つの自慢の「花づくり」と「スケート」については、子どもたちが活動しやすいよう、団結して作業等に取り組んでいます。また、「一輪車」や「歌声」については、発表を観て感動し涙したり、アドバイスしたり、ほめたりと、子どものがんばりをそのまま受け止め、心から応援しています。それでは、四つの自慢とＰＴＡの取り組みについて紹介します。

一、「花づくり」について

本年度の「フラワー・ブラボー・コンクール（ＦＢＣ）」春花壇審査で、県で最優秀賞の「大賞」を受賞しました。昭和四十七年からＦＢＣの取り組みを始め、春花壇審査には三十九回参加しました。本校卒業生の保護者は全員花づくりの経験があり、子どもと一緒に堆肥や冬の寒さから苗を守るビニールハウスをつくっています。花づくりは、学校、ＰＴＡ、地域の自慢であり誇りです。

春花壇テーマは「大空にはばたく」

ＰＴＡ作業で堆肥づくり
３年ねかせた土を使って花を育成

ＰＴＡ作業で立てたビニールハウス内で春花壇の定植

午後８時頃から氷点下２度以下のスケート場でリンク作り

二、「スケート」について

スケート学習は、昭和五十七年に冬の厳しい寒さを利用して始まりました。水まきはＰＴＡ、教職員、地域のボランティア（水まき名人）が当番制で行います。子どもは、冬休み明けから、毎朝一時間目にスケート学習をし、一月下旬の冬祭り集会で練習の成果を発表します。

三、「一輪車」と「歌声」について

明宝小中との交流、お客様の訪問、授業参観、運動会、学習発表会、祭礼等で発表します。子どもは、観ていただいた方から拍手やおほめの言葉をいただくことにより、「自分は地域や学校で役に立っている」という自己有用感や自信をもち、小川を愛する気持ちをさらに高めています。最後に、授業参観日に合唱を聴いた保護者の感想を紹介します。

「心に響き渡る合唱で、一生懸命歌う姿に感動し自然と涙があふれました。一人一人が自信をもち信頼し合っていないとあの声は出ないと思います。ぜひ、地域の皆さんの前でも発表してほしいです。」

高学年のロング一輪車をくぐる低学年

明宝小との交流で合唱発表する子どもたち